

帝国農会幹事 岡田温(9)

—— 帝国農会幹事時代③ ——

川 東 埴 弘

目 次

はじめに

第1章 大正10年

第2章 大正11年（以上、第18巻第1号）

第3章 大正12年

第4章 大正13年（以上、第18巻第2号）

第5章 大正14年

第6章 大正15年（以上、本号）

は じ め に

前稿¹⁾で、帝国農会幹事・岡田温の帝国農会幹事時代（大正10年4月～昭和11年9月）の活動のうち、大正10年～13年まで考察したが、本稿では14、15年（1925、26年）の温の活動について考察することとする。本時期は、第一次大戦後の農業・農村不況が深刻化し、帝国農会は、引き続き、農業、農民、農村危機打開のために、下からの農政運動、農村振興運動を盛り上げていき、温がその中心的役割をになっていた。

第5章 大正14年

大正14年（1925）、温54歳の年である。帝国農会の幹事を続けている。ま

1) 拙稿「帝国農会幹事 岡田温(7)(8)―帝国農会幹事時代①②―」（『松山大学論集』第18巻第1号、2号、2006年4月、6月）。

た、前年初当選以来衆議院議員も務め、双方の仕事で極めて多忙である。本年は大戦後の農業、農民、農村の危機が続き、温は帝国農会幹事及び中正倶楽部の衆議院議員として、帝国農会の業務（農業経営改善のための調査や講演等）や農村振興運動（農務省の独立、農家負担の軽減問題、義務教育費の国庫負担の増額、米穀法の改正、自作農の維持創定、等々）等に取り組んだ。そして、護憲3派の加藤高明内閣下の第50議会（大正13年12月26日～14年3月30日）で農村振興運動の重要課題のひとつ、米穀法の改正がなされ、また、3月31日、農商務省が農林省と商工省に分離し、念願の農林省が独立するなど、成果をあげている。しかし、義務教育費の国庫負担増加は否決されている。その他、この議会では、普選法案、治安維持法案も通過した。

大正14年は政界の離合集散が激しい。第50議会終了後の5月10日、革新倶楽部が分裂した。犬養毅らが政友会（総裁は4月高橋是清から田中義一に交代）に合流し、その際、温の所属する中正倶楽部の一部（11名）も政友会に入った。他方、合流に反対する尾崎行雄ら革新倶楽部8名は中正倶楽部20名および無所属の2名とともに、5月30日新正倶楽部を結成した（30人）。温も新正倶楽部に入った。護憲3派内閣は2派内閣となったが、憲政会と政友会の離反は時間の問題となった。7月末に税制整理案をめぐって、政友会と憲政会が対立し、閣内不統一となり、7月31日、加藤高明内閣は総辞職した。しかし、大命は再び加藤高明に降下し、8月2日、第2次加藤高明内閣が成立した。憲政会単独の内閣で、憲政会は議会では少数であった（大正14年12月末、憲政会163、政友会136、政友本党114、新政倶楽部25、実業同志会9、無所属17、計464）。少数与党となった憲政会は、第51議会を乗り切るために政友本党（総裁は床次竹二郎）に近づいた。12月8日、憲政会の若槻礼次郎内相は床次竹二郎を訪問し、政府予算案および税制整理案を説明し、政策援助を懇請した。憲政会と政友本党との提携実現となった²⁾

2) 升味準之輔『日本政党史論』第5巻、東大出版会、103～113頁。『議会制度百年史院内会派編衆議院の部』308～315頁。

第1節 帝国農会幹事・衆議院議員活動関係

大正14年(1925)の正月は故郷で迎えた。1日は朝9時に石井小学校における拝賀式に出席し、午後3時からは南土居部落の新年宴会に出席し、訓話を行っている。2日は家例の鋤初、書初や年賀状の整理を行い、3日は新宅の岡田義朗宅の家産整理等を行った。5日は親戚の八木忠衛や越智太郎の訪問を受け、種々相談している。6日は温泉郡農会、県農会、農事試験場を訪問し、その夜、道後ホテルにて、温の支持者たち(温泉郡の升田常一、大西広人、三好綱一、田中好忠、仙波茂三郎、松田石松ら)と小宴を催している。なお、支持者との会合には金が要る。7日の「日記」に「石井信光君来訪。昨夜ホテルノ支払全部支払ノ件、手当(県農会)残額ヲ同君ノ支出セル運動費ノ内入ヲ承諾ス。面白カラサル行為ナリ」とある。

1月8日、温は東京での帝国農会幹事、衆議院議員としての活動のために上京の途についた。この日、午前10時石井駅を出発した。松山市駅では仙波、大西、石井ら支持者に見送られ、高浜から尾道に向かい、東上した。途中兵庫県城崎郡城崎町に行き、9日の午後6時から城崎郡青年農民会の幹部40余名と懇談し、翌10日には城崎郡豊岡町に行き、城崎郡青年農民会の発足式に出席し、来会者300余名に対し、講演した。終わって、京都に行き、夜11時25分発にて浜松に向かい、翌11日午前9時に浜松に着し、午前は静岡県浜名郡町村農会総代会に出席し、午後2時から4時過ぎまで、来会者400余名に対し、講演を行った。そして、その日の夜中11時4分発にて東上し、翌12日朝6時20分東京に着した。

温は1月12日、温は帝農に出勤し、帝農相談役の山崎延吉問題について、矢作栄蔵帝農副会長と協議している。それは、読売新聞が去る1月7、8日の両日、山崎延吉(前帝農幹事で、帝農相談役)擁護、福田美知幹事批判の立場から、帝国農会にとって不快な記事を掲載したためであった。1月7日の読売新聞記事は、「引きつゞくお家騒動、之では帝国農会も末、山崎相談役に突然と解職の通知状、岡田幹事の地位もスコブル危うい、残るは福田主席幹事一派

の陰謀組」という衝撃的な見出しで、内容は福田幹事が昨年5月の総選挙で政党の走狗となり、農会を政争の具にし、そして、不偏不党の立場であった山崎延吉一派を農会から駆逐すべく術策を勞し、昨年には内藤友明参事、山中直一書記を首切り、さらに山崎相談役を突然解職した。そして、岡田温も狙われているとの記事であった。また、1月8日の読売新聞記事は「記事掲載の中止運動や苦しまぎれの声明書、あわてた帝農の福田幹事」との見出しで、内容は福田幹事が正力読売新聞社長に帝農の内輪もめの記事の掲載中止を求めたこと、山崎辞任は首切りでなく、山崎の一大抱負である高等国民学校創立のための辞任であると弁明しているが、実際はそうでなく、山崎氏が請われて帝国農会幹事に就任し、主席幹事として農会と生死を共にし、農民の覚醒を促し、大いに貢献してきたのに、福田幹事が濃厚な政党的色彩で活動し、農会を政争の具にしてきたこと、そこで、山崎氏が農村問題を政争の具にすることは農民を惑わし、農村問題の解決を困難にするとして農会幹事を去ったこと、しかし、矢作副会長の取り計らいで相談役にとどまったが、相変わらず山崎氏が農会の実権をもっているため、それを福田幹事が快く思わず、福田幹事が権力を掌握するために山崎氏と氏の崇拜する職員を一掃したのだ、との記事であった³⁾。ただ、この読売記事は山崎寄りでバイアスがかかっており、温は読売記事にも、帝農の福田の弁明にも共に不快感を示している。12日の「日記」に「去七、八日ニ読売新聞ニ面白カラサル記事ヲ載セ、農会ハ之レニ釈明シタリト。共ニ面白カラス」とある。また、13日には温の後輩、農商務省の渡邊侯治らが温を訪問し、帝国農会内紛問題や温の問題について心配している。この日の「日記」に「午后ハ農商務省ヨリ渡邊君以下三名来会。協議ス。散会后、渡邊、大石、小林、残留。帝国農会問題…自分ノ問題ニツキ協議ス。同窓ノ後進ノ士ハ自分ノタメ、尤モ忠実ニ心配セリ」とある。15日、温は福田美知幹事と山崎問題を腹を割って話した。「山崎氏一件ニツキ赤心ヲ談ス。…同君モ同心」。16

3) 読売新聞の記事については、松田忍氏より提供を受けた。感謝申し上げます。

日は農商務省の石黒農政課長を訪問し、矢作副会長と山崎延吉の対立問題について協議、17日は東京帝国大学農科大学の原熙先生在職25周年祝賀会に参加し、祝辞を述べ、終わって、帝国農政協会実行委員会に出席し、明18日の全国農政大会について協議した。

1月18日に、帝農主催の全国農政大会が開催された。この大会は第50帝国議会開会を前にして、農村振興のために政府、政党に圧力をかける大会であった。全国から農会の役員150人ほどが出席し、午前会議、午後演説がなされ、大会宣言と決議が可決された。大会宣言は「農村振興ノ声大ナリト雖モ其実之二伴ハズ、田園ノ荒廢ハ日ヲ逐ウテ益々甚シカラントス。今ニシテ農家ノ多年唱導セル主要ナル農業政策ノ断行ヲ見ズンバ国家ノ前途亦荒廢シ、茲ニ全国農政大会ヲ開催シ、健全ナル国論ヲ喚起シ、第五十議會ニ於テ之ガ実現ヲ期セントス」というものであり、また、決議事項として、1. 農林省の独立、2. 義務教育費国庫負担の増額、3. 米穀法の改正、4. 米及び小麦に関する関税率法の改正、5. 自作農の維持及創定、を決めた⁴⁾。大会後、全員を4組に分け午後3時から各政党を訪問、陳情し、温は憲政会を訪問した。

1月19日午前10時半から鉄道協会にて3団体連合（帝国農会、教育会、町村長会）の義務教育費国庫増額既成同盟会の大会が開催された。500余名が出席し、温が開会の辞を述べた。そして、大会宣言、決議が可決され、各派の演説がなされた。夜は、丸ビルの精養軒で懇親会があり、300余名も出席した。なお、この大会には、山崎延吉も参加しており、帰途、温が山崎延吉に帝農相談役辞任問題を談ずる記事がある。「山崎氏同道ニテ自宅ニ帰り、同君辞任問題ニツキ談ズ」。翌20日、3団体連合の代表が首相官邸を訪問、若槻礼次郎内相に陳情し、さらに、政友会、政友本党、憲政会、貴族院を訪問、陳情した。温は首相官邸及び政友本党、憲政会を訪問、陳情した。なお、この日、矢作副会長、4幹事と山崎延吉とが中央亭にて会談している。温は「日記」に「意味

4) 帝国農会史稿編纂会『帝国農会史稿 資料編』農民教育協会、昭和47年、1014頁。

アリ」と記している。また、この日の内藤友明（帝農の前参事，富山県農会勤務）が温を訪問し，温に幹事辞任を勧めている。この日の「日記」の欄外に「内藤君辞任ヲス、メ来ル」とある。また，21日は正午宇都曾一ら同窓8人が温を訪問し，東洋軒にて山崎延吉問題について協議し，おそらく，帝農の山崎解任への批判であろう。それに対し，温が「山崎氏一件ノ釈明」をしている。また，この日，帝国農政協会運動委員と今後の方針について協議し，さらに，午後4時から中正倶楽部代議士会に出席し，第50議会对策の基本方針を決定している。

1月22日，護憲3派内閣下の第50帝国議会が開会した。加藤高明首相が所信表明演説を行い，行財政整理，普通選挙法の制定，貴族院の改革等を表明した。また，浜口雄幸蔵相，幣原喜重郎外相も演説した。後，野党側の松田源治（政友本党），吉植庄一郎（同）らが質問に立ち，護憲3派内閣を攻撃した。23日も中村啓次郎（政友本党），小川郷太郎（中正倶楽部），木下謙次郎（政友本党）らが，24日は長岡外史（中正倶楽部），高見之通（政友本党），桜内幸雄（同）らが質問に立ち，政府攻撃をした。温は中正倶楽部の予算委員を務めた。26日～31日に予算委員会があり，出席し，30日には温が質問に立った。そこで，温は現在の産業政策，経済政策が商工業に有利で，農業に不利，犠牲になっている，今度農林省ができて，農村振興がなされても，他の省庁が商工業中心の政策なら，農業政策は「減殺」される，政府は国政の全体として農村について如何に考えているのか，と基本的な姿勢について質問した。それに対し，浜口雄幸蔵相は「商工業ニ偏重シテ農業ヲ偏軽ナラシムルガ如キ考ハ毛頭持テ居リマセヌ，都会モ農村モ商工業モ農業モ同様ニ之ヲ重ク見テ居ル」とかわしていた⁵⁾。なお，その間の27日に，温は農業経営調査特別委員会を開き，また，29日には農政研究会幹事会を開き，米・粳・小麦の関税増加と農村振興の建議などを決めるなどしている。

5) 『第五十回帝国議会 衆議院委員会議録』大正14年1月30日。

1月31日、温は予算委員会、理事会に出席した後、夜9時40分発にて滋賀県での講演のために出張の途につき、翌2月1日朝8時米原に到着し、そこからは車で長浜に向かった。そして、11時半から坂田郡農会主催の多耕作及び繭真綿の品評会授与式に参列し、また、午後1時半より2時間ほど、500余名に対し、農村振興の意義、内容について講演した。終わって、午後6時発にて帰京の途につき、翌2日朝7時に東京に着した。自宅で小憩の後、帝農に出勤し、そして、登院し、予算委員会に出席した。

2月も温は衆議院議員として活動多忙であった。3日午前は予算委員会分科会、午後は本会議に出席した。この日の本会議に、野党側から床次竹二郎（政友本党）外20名提出の「市町村義務教育費国庫負担中法律改正案」と増田義一（中正倶楽部）外4名提出の「市町村義務教育費国庫負担中法律改正案」の2つの法律案が上程された（内容は同じで、4,000万円を6,000万円に引き上げる案）。趣旨説明は、政友本党の元田肇と中正倶楽部の増田義一が行った。趣旨は農村負担の増大は義務教育費の増大であり、したがって、国庫負担を増やすことは農村の負担軽減につながり、農村振興に役立つというものであった。しかし、護憲3派内閣側は予算案に国庫負担補助増額を計上せず、この野党案には反対であった。本会議で憲政会の高田耘平が反対討論で政友本党を攻撃し、その中で不穏当な発言があったために、政友本党側が怒り、本党の牧山耕蔵、原惣兵衛議員が直接行動に出て、議場が混乱した。両議員は懲罰に付された。しかし、護憲3派側から討論打ち切りの動議が出され、混乱の中、強行採決され、野党側提出の義務教育費国庫負担増額案は護憲3派の数の力により否決された⁶⁾。この日の温の「日記」に「午、本会議。義務教育費国庫負担法律改正案ノ上程ニヨリ一大騒擾ヲ起ス。自分ノ目前ニテ猪野毛君乱打サル。二回暴行ヲ敢テシテ、与党、本党作戦（十二時迄壇上占拠）ノ裏ヲ搔キ、賛成演説ヲナス。高田君反対演説ニテ討論終結トナル。十時二十分本案否決、散会」とあ

6) 『大日本帝国議会誌』第15巻、993～1005頁。

る。

2月4日は予算委員会の分科会があり、温は7分科の文部省関係で実科問題について質問をしている。5日午前は予算委員会、午後は本会議に出席した。この日午後6時から帝国ホテルで、教育費国庫負担増加を求める3派連合（町村長会、教育会、帝国農会）による慰労会があり、出席した。「午後六時ヨリ帝国ホテルニテ催ホサレタル教育費ニ関スル町村農会、教育会等ノ慰労会ニ出席ス…。浦山君、山口君ト三人、中正俱樂部ヲ代表シテ、本党ヨリ高橋光威及蔵園、××ノ三代議士出席ス…。教育会ノ為藤五郎氏、文相弾劾ノ演説ヲナス」。

2月6日は予算委員会の農商務省関係の分科会に出席し、温は関税政策について質問し、7日は帝国農会に出勤し、午後から議会に出席した。この日、政府側から「米穀法中改正法律案」（米穀の数量調節から数量又は市価調節への改正）が上程された。政府委員の三土忠造（農商務政務次官）が趣旨説明し、それに対し、野党側の無所属・多木久米次郎がこれまでの政府による農村圧迫政策を批判する発言があり、また、政友本党の吉植庄一郎の質問があり、三土忠造、高橋是清農商務大臣が答え、委員会に付された。8日午後3時より中正俱樂部の代議士会に出席し、予算案に対する態度を協議している。そのうち文部関係の師範学校改善費削除説が多く出て、結局各人の自由となった。9日予算委員会の文部省関係の分科会に出席し、師範学校改善費について中正俱樂部、政友本党は意見留保したが、与党の護憲3派の賛成により、原案可決した。10日午前中正俱樂部代議士会に出席し、予算に対する最終的な態度について協議し、希望条件、付帯決議をもって予算委員会の総会に臨むことにし、杉宜陳代議士が付帯決議を述べたが、認められず、護憲3派の原案どおり可決された。また、この日午前10時図書館にて農政研究会総会を開き、農村問題に対する態度をきめ、夜は農政研究会幹事と米穀法改正の委員と協議している。11日は帝農における瑞穂会に出席した。12日は午前農商務省での農業経営集計打合会に出席し、午後2時から本会議に出席した。この日大正14年度

予算案が審議に付された。予算委員長の町田忠治（憲政会）が経過報告をした。それに対し、政友本党の吉植庄一郎が修正案を出し、また、政友本党の鳩山一郎が朝鮮の鉄道工事費にかんし、憲法違反、会計法違反とし、予算返上の緊急動議を出し、否決されると、政友本党側は一同退場し、護憲3派側の多数にて予算案は可決された。温たち中正倶楽部は付帯決議をつけて予算案に賛成した⁷⁾。この日の「日記」に「午後二時、議会ニ出席ス。予算案上程。朝鮮咸鏡道鉄道工事費ニ関シ、政友本党ハ憲法違反、会計法違反トシ、予算返上ノ緊急動議ヲ提出シ、倒ル、ヤ一同退場ス。跡ニテ与党ノミ、東、大口、杉三君演説ニテ討論終決可決」とある。

2月13日、温は農商務省にての農業経営集計打合会に出席し、終日質疑応答。14日は登院して米穀法改正委員会を傍聴した。15日は日曜日で中正倶楽部の代議士と箱根に清遊。そのまま宿泊。17日午前中は帝国農会に出勤し、久し振りに会務をこなし、午後は本会議に出席した。18日は終日、農会で事務を見る。夜は講農会幹事会に出席した。

2月19日、本会議に出席。この日「米穀法中改正法律案」の委員会報告がなされ、本会議で審議に付された。高田耘平（憲政会）、東郷実（政友本党）、八田宗吉（政友会）、土井通憲（革新倶楽部）が賛成し、また、温（中正倶楽部）も賛成演説し、全会一致で可決された。この日の「日記」に「米穀上程、賛成演説ヲナス。高田、東郷、八田、自分、土井通憲賛成演説」とある。本会議での温の発言要旨は次の通りである。温は政府提出の改正案に大体において賛成と述べるが、同時に疑義、希望を述べた。即ち、温は、米穀法は世間では農業保護政策と見られているが、確かに農業保護する所があるが、一面には農業の利益を抑える所があり、差し引きしてみると、農業保護政策に属するものではなく、どちらかというとな農業者の利益を犠牲にする社会政策であると述べる。その根拠として、外国から安い輸入米による内地米の圧迫に対し、内地米

7) 『大日本帝国議会議誌』第15巻、1063～1084頁。

の価格維持政策が最も重要だが、その価格維持は従来関税定率法での農業保護によってなされているが、米穀法の第2条の勅令で輸入税の免除ができることになっており、関税による保護が大変減殺されているとの疑義を述べた。また、米価が下落した場合に政府が米穀を買い上げるのは確かに保護政策であるが、米価が騰貴した場合にはこの政府貯蔵米が米価を抑える役割を果たし、利害を相殺してしまい、損得不明だが、どちらかといえば、不利益が多いと述べた。ただ、温は米穀法の撤廃というようなことは不穏当だとして、社会政策ならば、農業者の犠牲をなるべく少ないようにしてもらいたい、農業保護政策ならば、その実が上がるようにしてもらいたいとの希望を述べた⁸⁾。温の農業者の立場、現実主義的農政家としての見解がよくわかる。

さらにこの日、2月19日、護憲3派内閣は「治安維持法案」(国体若しくは政体の変革を企てたり、また私有財産制を否認することを目的として結社を組織した者に対し、10年以下の懲役に付す)を上程し、内相の若槻礼次郎が趣旨説明をした。それに対し、質問者が多く、革新倶楽部から星島二郎、清瀬一郎、田崎信蔵、政友本党から鳩山一郎、原夫次郎、中正倶楽部から山口政二、実業同志会から前野芳蔵、政友会から青木精一、無所属から安藤正純、有馬頼寧らが質問し、反対意見が出たが、与党側の多数で委員会付託となっている。特に、与党の一員からも反対意見が出た⁹⁾。

2月21日、護憲3派内閣は「普通選挙案」(納税資格の撤廃、男子普選)を上程した。この日の「日記」に「年来ノ政界ノ大問題、普通選挙案上程。若槻内相説明シ…、各員ノ質問ニ答フ。実ニ天下ヲ負フテ立ツノ概アリ」とある。加藤首相、若槻内相による趣旨説明が行われた。それに対し、政友本党の松田源

8) 『大日本帝国議会誌』第15巻、1139～1140頁。

9) 『大日本帝国議会誌』第15巻、1140～1151頁。与党の革新倶楽部の星島二郎は、「諸君、吾々は現政府を信任致して居る一人であります、普通選挙を断行せんとし、貴族院改革を致さんとする現政府を支持致して居る一人であります。然るに其与党に属する私共が突如此法案に、而も反対の意思を以て質疑をしなければならぬと云ふことは、洵に遺憾至極に存ずる次第であります」と切り出し、この治安維持法案に種々反対意見を述べた。

治、鳩山一郎、袴苗代、土屋興らが、納税資格の撤廃は家族制度の破壊だ、世帯主にとどめるべきだ、普選になると、無政府主義者、共産主義者が議会に進出してくるなどと反対意見を述べたが、与党側の多数で委員会付託となっている¹⁰⁾

2月22日は全国農政団体会議が鉄道協会にて行われ、愛媛から上京中の宮内長、野口文夫らとともに出席した。来会者は山口、岡山、長野、千葉、愛媛と少なかったが、そこで、農民党設立の委員12名を選んでいる。23日は帝農に山崎延吉、内藤友明が来会、会談後、登院した。24日は午前は帝農に出勤し、午後から登院した。この日、「米麦其他農産物の関税定率法改正に関する建議案」(荒川五郎外15名)が上程されている。25日は野口らを両院見物させている。

2月26日の本会議に4派連合の「農村振興に関する建議案」(荒川五郎外15名)と政友本党の「農村振興に関する建議案」(床次竹二郎外14名)の2つが上程された。政友本党の建議案は抽象的であったが、4派連合(憲政、政友、革新俱樂部、中正俱樂部)の建議案は具体的で、1. 農家負担の軽減、2. 自作農の維持及創定、3. 農村教育の改善、4. 農業金融の充実、5. 副業の奨励、を掲げた¹¹⁾この日の「日記」に「農村振興ノ建議案出ツ。四派連合ハ荒川君…、野党ハ三輪市太郎君説明ス。両君トモ熱心ナル農村振興論者ナレドモ農村問題ノ現代的理解ナク、為ニ識者ノ賛成ヲ得難キヲ感ズ」と記している。この両案は一括して、18名の委員を選び委員会に付された。温も委員となった。

2月27日、温は午前中は農村振興建議案委員会に出席し、午後からは東京

10) 『大日本帝国議会議』第15巻、1169～1185頁。

11) 『大日本帝国議会議』第15巻、1246頁。4派連合の建議案は、農政研究会および帝農と協議の上、提出されたものだが、帝農が求めている義務教育費の国庫負担増額はなかった。それは、護憲3派内閣が財源がないと、反対していたため、4派連合の建議案の中から削除されたのであった。その点を野党・政友本党の三輪市太郎がこの日の本会議で批判している。

芝の協調会館で開かれた日本農民組合大会（第4回大会）に出席，傍聴した。この日本農民組合大会について，温は「日記」に「日本農民組合大会ニ出席ス…。小作者一団ノ活動前途畏ルヘシ」と記している¹²⁾

2月28日，農商務省の職員と農業経営調査集計様式の打ち合わせがあり，このため，中正倶楽部の選挙法改正に関する協議会，また，日本農民組合の大会に出席できなかった。

3月も議員活動で多忙であった。2日，本会議に，「衆議院議員選挙法改正法律案」（普選法案）の委員会報告がなされ，審議に付された。政友本党から修正案（25歳以上の世帯主に限る等）が出されたが，審議の結果，政友本党の修正案が否決され，護憲3派案が多数で通過した。温も普選法案に賛成した。

3月3日，午前から夕方まで予算委員会に出席し，午後6時から帝農で評議員会を開き，大正13年度予算更正や功労者表彰などについて協議した。また，この日，午後の本会議で荒川五郎外15名提出の「米麦其他の農産物の関税定率法改正に関する建議案」が上程され，委員会に付されている。4日は通信省，文部省を訪問した。

3月5日は農村振興に関する建議案の委員会に出席し，温は質問に立った。温は，三土忠造農商務政務次官に対し，農村振興の根本問題は何か，政府の農村振興策は不十分でないか，すなわち，自作農創出政策が不十分である，農産物の関税政策も不十分である，小麦の関税は諸外国に比べて保護が薄い，等の意見をのべ，また，早速整爾大蔵政務次官に対し，農家の負担が重い，それは水田に対する税負担が世界に類がないほど重いためである，また，農村の宅地

12) 日農の第4回大会は，東京芝公園の協調会館で，2月27，28日，3月1日の3日間にわたり，388名の代議員と800名の傍聴者を集めて開催された。この大会で，日農の組織は大正11年末の96支部，6,166人が，14年末には675支部，5万1,118人に拡大したと報告された。また，この大会で，日農総本部を東京に移転し，全国的に政治運動に乗り出し，さらに政党組織の為に闘うことを決めた（青木恵一郎『日本農民運動史』第3巻，336，337頁）。この日農の組織の発展ぶり，政治闘争化を傍聴して，温が「小作者一団ノ活動前途畏ルヘシ」と記したのだろう。

の税は都市の宅地に比して重いし、戸数割りも重い、等々の意見を述べた。6日も温は農村振興の委員会に出席し、温は、鈴置倉次郎文部政務次官に対し、地方の農学校の農業教育が不十分であるが、文部省はどう考えているのか、等の質問をしている¹³⁾

3月7日、午後登院、本会議に出席した。この日、治安維持法案が上程され、委員会報告が前田米蔵委員長よりなされ（原案の第1条中「若ハ政体」を削除）、審議に付された。無所属の田淵豊吉、菊池謙二郎、革新倶楽部の清瀬一郎、湯浅凡平、実業同志会の武藤山治、中正倶楽部の坂東幸太郎らが質問及び反対討論に立ち、また、政友本党から修正案が出たが、護憲3派の多数にて否決され、委員長報告どおり、治安維持法が衆議院を通過した。なお、温は本会議の途中、午後4時、出張のため議会を退席し、福島に向かった。そのため、この治安維持法への賛否の態度は不明である。

3月8日、温は福島に到着して郡山市で開催された第2回福島県農政大会に参加し、午前中は会議、午後は400名に対し、講演を行った。終わって懇親会に出て、その夜11時50分郡山発にて、帰京の途につき、翌9日午前6時上野に着き、一旦自宅に帰り、その後帝農に出勤した。

3月10日、午前中から登院し、農政研究会幹事会に出席し、温らが開墾助成案の建議を提出し、また、この日、革新倶楽部の松本君平が「婦人参政に関する建議案」を提出している。11、12日は、帝農に出勤し、矢作副会長と調査事項、府県農会幹事、技師会の打ち合わせ、議案の起草等を行った。14日は登院、本会議で革新倶楽部の尾崎行雄が伊野毛議員殴打事件に対する議長の失態を糾弾している。温は「日記」に「尾崎氏初メテ登壇。議長ニ二十ヶ状ノ質問ヲナス。矢張り言論雄…。質問寸分ノ間隙ナシ」と感嘆している。

3月16日は終日予算委員会に出席し、17日も予算委員会と本会議に出席し、18日も本会議に出席した。この日、本会議で大正14年度予算の追加予算

13)「農村振興に関する建議案外一件委員会会議録」第2回（大正14年3月5日）、第3回（同年3月6日）より（『第五十回帝国議会議院委員会議録 下』所収）。

が可決されている。19日も本会議に出席した。この日、実業同志会の武藤山治外4人から「金輸出解禁」決議が上程され討論に付されている。しかし、浜口大蔵大臣が時期尚早と反対し、護憲3派側の多数にて否決されている。20日は請願委員会に出席し、この日、重信川改修について請願が採択されている。

3月20日、温はこの夜、岐阜での農会講習に出張のため、9時40分発にて出張の途につき、翌21日朝7時40分岐阜に着した。そして、元物産陳列場における岐阜県農会主催の農業講習会に出席し、来会者170名余に対し、正午まで講義を行った。22日も午前9時より午後4時半まで農業経営と農政について講義を行い、その夜、帰京の途につき、23日午前9時帰京した。

3月23日、午前は鉄道省に行き、松山線の停車場問題で陳情を行い、後、帝農に出勤し、幹事会を開催した。午後は登院し、本会議に出席。午後6時から瑞穂会に出席した。24日、本会議に出席した。「北海道農地特別処理法案」(自作農創出)が上程され、委員会報告がなされ、討論に付された。温が質問に立ち、北海道の拓殖は、開拓以来自作農扶植主義であったのに、なぜ、大地主制になっているのか、この政策は土地の兼併者(地主)の擁護になるのではないか、自作農創設は北海道より内地が先でないか、等々の反対意見を表明した。しかし、多数で可決されている¹⁴⁾また、この日、「農村振興に関する建議案」が上程され、委員会報告がなされ、討論に付された。温が賛成討論に立った。温は、農村振興の理由を種々の点から具体的に指摘した。まず、国費分配の点から、来年度農林省が独立するがその経費は4,146万円余で、電話交換拡張費の3,700万円とあまり変わらない、又、食糧政策費(開墾助成等)は661万円余で、通信省の航路補助費よりも16万円も少ない、農商工の負担を比較すると、所得を同一にして農家負担が100とすると、工業者72、商業者58、金貸48、従業者27で、農業者が重い、小麦の関税額を見ると、百斤に対し、イタリア1円75銭、フランス1円63銭、アメリカ1円39銭、それに対し、

14)『大日本帝国議会誌』第15巻、1591～1592頁。

日本はただの70銭に過ぎない、等々述べ、建議案の採択を述べた。その結果、多数の賛成で、建議案が可決された¹⁵⁾

3月25日、登院し、衆議院本会議に出席した。第50議会の最終日である。この日、貴族院に回付されていた大正14年度の予算案が可決されている。そして、この日、貴族院の本会議に、衆議院より貴族院に送付されていた「衆議院議員選挙法改正法律案」(普選法案)の貴族院の委員会報告(選挙権の拡張をできるだけ縮小しようとする修正報告)がなされた。それに対し、貴族院改革問題等で時間をとったため、時間不足で、会期が1日延長となった。温はこの普選問題には大いに関心があり、この日の「日記」に「貴族院ハ貴革問題討議中ニテ普選ニ移ラズ。本日ハ十二時ニ至ルカ、或ハ延長カトナルヘシ。不快ヲ感セシ故、七時退場ス」と記している。26日、温は登院し、貴族院での普選法案の審議を傍聴した。貴族院では、衆議院の普選法案を修正・可決した。その結果、衆議院と貴族院の対立となったため、さらに会期が2日間延長となった。「日記」に「貴族院普選討議ニ入ル。形勢見込立タズ。…十一時四十分二日間延期ノ詔書下リ、散会ス」とある。そして、28日に両院協議会が開かれ、対立が続いたが、深夜になって漸く妥協が成立した。「日記」に「午后登院、両院協議会ニテ互ニ相譲ラズ。開会セラレザルガ故ニ囲碁等ヲナシ時間ヲ費ス。午後十一時半頃ニ至リ交渉会ニテ妥協案成立セシトノ報アリ、…十一時半頃閉会」とある。そして、29日に両院の本会議で普選法案が成立した。

3月30日は午後農商務省や通信省を訪問し、夕方からは農政研究会幹事会を開き、高田、八田、川崎、土井、西村、三輪、松浦、池田らと今後の方針につき協議し、金融、負担軽減、自作農創設、農家経済改善等を課題とすることを決めている。31日は第50回議会の閉院式であったが、温は欠席し、帝農に出勤し、雑事を行っている。

4月、温は帝農幹事として、種々業務を行い、また、講演のためによく出張

15)『大日本帝国議会誌』第15巻、1610～1611頁。

した。さらに議員としても種々業務を遂行した。1日は、午前宮中に出頭し、正午摂政宮殿下と謁見した。この日の「日記」に「摂政宮殿下謁見ヲ賜リ、次テ酒饌ヲ賜フ。南海村落ノ一農夫トテハ無上ノ光栄ナリ」とその感慨振りを記している。なお、この日、念願の農林省が独立したが、温の「日記」にはその記事がない。2日は鉄道省を訪問し、国鉄松山線の堀江や和気の停車場問題の状況を聞き、また、玉利先生宅を矢作副会長らと訪問し、記念品を贈呈し、その夜は横井時敬先生、矢作副会長等と農会記念史編纂の打ち合わせを行った。3、4日は自宅で八基村の基本調査について手入れを行った。

4月4日の夜9時40分発にて、温は瑞穂会の会合及び講演のために三重県に出張の途につき、翌5日午前9時津に着し、山口、堀田、猪野毛ら瑞穂会のメンバーと合流し、高等農林学校、実業女学校等を参観し、後、一志郡郡役所にて講演し、終わって二見に行き、宿泊した。6日は午前伊勢神宮を参拝し、神官より祓をうけ、「実ニ石井村ノ一農民ニシテ誠ニ難キコトナリ」と感動し、午後は高等女学校における、帝国農会主催の講演会に出席し、矢作副会長の挨拶、洪沢博士の電気に関する講演の後、温が「選挙法改正と農村問題」と題して、来会者500、600名に対し講演を行った。終わって、鳥羽に行き、宿泊した。7日は鳥羽の御木本幸吉の真珠養殖場を視察し、午後帰京の途についた。

4月8日午前6時40分東京に着し、一旦帰宅した後、出勤し、八基村の基本調査校正などしている。9日は矢作副会長、4幹事（温、福田、増田、高島）にて終日自作農創設案の研究を行い、また、八基村調査の手入れや原稿「選挙法改正と農村問題」「焦眉の急は政治教育」の執筆を行い、10日は中正倶楽部の代議士会に出席し、また、原稿の仕上げを行った。11日は文部省を訪問し、実科問題を陳情した。12日は終日原稿を執筆し、13～15日は帝農に出勤し、業務（道府県農会職員協議会の準備等）を行い、また、八基村調査の手入れを行った。

4月16日から20日まで帝国農会は道府県農会協議会を開催した。福井と大

阪を除き、出席した。愛媛県からは多田、真木が出席した。16日は帝国農会の事業報告がなされ、17日は郡役所廃止と郡農会及び町村農会の活動問題などについて協議し、委員会に付託することとし、18日は各府県農会の事業報告、19日は各委員会を開催し、温は町村農会発展策と農産物販売所問題の委員会に出席、20日は各委員会の報告、農村振興に関して農林当局の説明と質疑応答があった。農村振興については委員会を作り決議案の協議がなされ、5日間にわたる協議会を終了した。この協議会の決議事項は、「郡役所廃止ニ伴フ郡農会善後策ニ関スル決議」(郡役所の農業関係技術員を郡農会技術員とし、又地方費より補助すること等)「町村農会発展ニ関スル決議」(町村農会に専門技術員を設置し、国庫補助を要望する等)「農会販売所ニ関スル決議」(帝国農会に販売所主任をおくこと等)「重要農産物実収調査ニ関スル決議」(農村教育ニ関スル決議)(農業補習学校の普及充実等)「農村振興費ニ関スル決議」(振興費の増額等)であった¹⁶⁾。21日以降も帝農に出勤し、種々雑務や調査(米麦生産費調査)等を行った。

4月27日には衆議院議員として、鉄道省を訪問し、松山線の堀江停車場問題を依頼し、また、逓信省を訪問し、魚成村の自作農創出資金融通決定の情報を得て、直ちに魚成村に通知している。28日は憲政会本部を訪れ、八並武治幹事長に松山線の和気停車場問題を陳情等している。29日は丸毛信勝とともに文部省を訪れ、実科独立を陳情している。

4月30日、温は午後7時20分発にて、島根、鹿児島、宮崎県での帝国農会主催の農村問題講習会のため出張の途につき、翌5月1日午後7時松江に着した。2日は八束郡熊野村、大庭村を訪問。3日は島根県農会楼上にて、午前10時より午後4時まで、翌4日も午前9時より午後3時まで「農業経営と農政」について講義を行った。しかし、来会者は40余名で甚だ振るわず、温は「類例ナキ寂寞ナル講習ナリシ」と嘆いている。講習が終わって、松江を午後

16) 『帝国農会史稿 資料編』1015~1018頁。

3時50分発にて出発し、浜田に行き、宿泊した。尚この日、温は新聞にて、政友会、革新倶楽部、中正倶楽部合同の情報を見ている。5日、温は午前中、「政費分配ヨリ見タル農政」(14枚)を一気に書き、13時20分浜田を出て、粟島神社を参拝し、後、小郡、門司を経て、鹿児島に向かった。6日午前9時鹿児島に着した。この日、温は鹿児島高等農林学校にて午後から講習会で「農業経営と農政」の講義を始めた。講習生は各方面から140余名が参加した。翌7日も午前9時から午後3時まで講義し、さらに午後3時半より5時まで鹿児島高農生の希望により現下の農政について講演をした。8日も温は午前9時より12時まで講義を行った。終わって、3時発にて宮崎県都城に向かい、8時都城に着した。9日、温は午前10時より県立都城農学校にて県農会主催の町村農会経営研究会に出席し、12時半より4時半まで講演を行った。翌10日も同農学校にて9時より12時半まで講演を行った。温は「今回ノ講義ハ尤モ気持良ク有効ニ演セラレタリ」と満足している。講義を終わって、午後2時15分発にて飴肥に行き、宿泊した。翌11日、温は飴肥中学校における那珂郡農会総代会に出席した。この日温は体調がすぐれなかったが、来会者約400名に対し、約4時間にわたって講演を行った。終わって、午後3時に飴肥を出発し、宮崎に向かい、宮崎で医者に診察をしてもらったが、腸を損じていた。また、熱も38.5度にのぼり、静養を勧められている。しかし、翌20日、熱が37.5度に下がったため、温は宮崎を10時40分発に出発し、児湯郡妻町に向かい、妻町の小学校講堂にて、児湯郡農会ら3郡の来会者400余名に対し、病を推して3時間程講演した。また、翌13日も午前9時より11時40分まで講演した。終わって、日豊線が不通のため、鹿児島周りにて、松山に帰国することにした。12時16分鹿児島を出て、門司に向かい、翌14日早朝門司に着き、下関に渡り、9時40分下関を出て広島に行き、広島から宇品に行き、高浜に渡り、午後9時前によく帰郷した。

5月15日、久しぶりに休養した。しかし、帰郷後も忙しい。16日は県農会における農業倉庫管理者の協議会に出席し、50余名に対して、温が米穀法改

正について報告し、終わって、青野岩平、宮脇茲雄、門田晋、多田隆らと道後で小宴を催した。17日は正午より石井村の篤農家懇談会に出席し、温は普選と農村問題について講演した。そのあと、東温一円会（東温十一カ村の有志の会合）に出席し、税制改正について講演した。18日は松山に行き、久保田旅館における農友会理事会を開き、午後2時より県公会堂にて、温の議会報告演説会を催した。仙波茂三郎が開会挨拶し、野口文夫、松尾が演説し、ついで温が約2時間にわたって講演した。19日には、郡中に行き、午後1時半より寿楽座にて議会報告演説会を開催し、300~400名が来会し、温が講演した。

5月20日、温は朝9時石井駅を出発し、東京での活動のために上京の途につき、翌21日12時半東京に着し、そのまま、帝農に出勤している。22日は帝農に出勤し、また、登院し、中正倶楽部の代議士会に出席した。この日、政友、革新倶楽部との合同問題を協議し（5月10日革新倶楽部総会で政友会との合同を決定、14日政友会は臨時総会を開き、革新倶楽部との合同を決定していた）、結局、合同に反対する中正倶楽部のメンバーが多数で新会派を作ることになった。「日記」に「中正倶楽部代議士会ヲ院内事務処ニテ開キ、出席ス。佐々木、増田、永田、石坂、井上、佐藤、武藤、坂本、自分出席…。残員二十名結束、革新倶楽部員ト合同交渉団体ヲ作ルコトニ決ス」とある。23日帝農に出勤し、雑事。24日は原稿の執筆（第50議会雑感）。25日は実科問題で、原鉄五郎、丸毛らと大蔵省、文部省を訪問し、陳情を行った。26日は上野英三郎博士の告別式に出席し、27日は愛媛より上京の佐々木、芳野、安藤、清水隆徳らとともに鉄道省を訪問し、停車場問題について陳情。28日は横浜に行き、海軍の演習を参観し、夜6時より帝農にて農業各団体の組織・二八会（蚕糸会、畜産会、産臨海、産業組合、帝国農会等）の初会合を持った。29日は中正倶楽部の代議士会を開き、明日合同に関する打ち合わせを行い、その後、農政研究会幹事会を開催し、憲政会の幹事らと地租委譲問題の意見交換をしている。30日、午後3時より工業倶楽部にて、新正倶楽部の発会式を挙行し、参加した。新正倶楽部は、政友会入りをしなかった革新倶楽部の残り

のメンバー（尾崎行雄，関直彦，湯浅凡平ら8名）と中正俱樂部の残りのメンバー20名らで結成した。31日は終日在宅し，原稿を執筆している。

6月も温は帝農幹事として，また衆議院議員として種々業務に従事した。1日は幹事会及び評議員会を開催し，来る6日の全国農会大会問題の協議。2，3日は早害見舞金の分配案の作成等，4，5日米生産費調査の作表等。

6月6，7日の両日，帝国農会は全国農会大会及び農林省独立祝賀会を上野精養軒にて開催した。6日午後1時開会し，大木遠吉会長の挨拶，矢作副会長による大会宣言及び決議事項の説明，そして，来会者の演説があった。祝賀会には岡崎邦輔農林大臣以下農林次官，局長，課長，招待者200余名が出席した。大会2日目の7日は帝国農会にて，決議事項の実行方法を協議し，内閣や各政党に陳情することを決めた。なお，大会宣言は「今や朝野ヲ挙ケテ農村振興ノ論議極メテ熾ナリ，然モ農業政策ノ解決セラレザルモノ頗ル多く，農村ノ前途依然トシテ不安ノ情態ニ在リ，惟フニ農林省ノ新設セラレタル所以実ニ茲ニ存シ，今後農業政策ノ遂行上面目ヲ一新スルモノアルベシト雖，此機会ニ於テ全国農会ノ意思ヲ表明シ，刻下ノ急務トスル農村振興ノ重要政策ヲ掲ケ，大ニ世論ヲ喚起シ，誓ッテ之ガ実現ヲ期セントス，敢テ宣ス」であり，決議事項は，1. 農産物関稅定率ノ改正，2. 農家負担ノ輕減，3. 農村金融ノ充實，4. 耕地政策ノ改善，5. 自作農ノ維持創設，6. 小作法ノ制定，7. 農村教育ノ改善，であった¹⁷⁾。翌8日，温は陳情委員とともに，逓信省を訪問し，安達逓相に陳情し，更に大藏省を訪問し，浜口藏相に陳情した。更に政友本党を訪れ，松浦五兵衛に面会，陳情した。その夜は農政研究会幹事会を開催した。

全国農会大会後も温は種々業務を行った。10日は実科問題で原鉄五郎らと協議，11日は憲政会本部を訪れ，八並武治幹事長に松山線の和気停車場問題について憲政会の意向を質している。12日は原稿（農村より観たる地方行政

17) 『帝国農会史稿 資料編』1018~1019頁。

整理)を執筆し、13日は輸出入品に関する調査、14日は中央大学にいき、学生400、500名に対し、農業問題について講演した。15、16日は米生産費調査の研究、17日は二八会(農業各団体の協議会)の発会式を挙行了。18日は米生産費調査の研究、19日は原稿執筆(第50議会雑感)、20日は千葉高等園芸学校に行き、学生の農政研究会に出席し、講演した。21日は自作農創設資料の作成、23日は米生産費の集計、24日は農政研究会幹事会を開き、自作農創設維持と農村金融問題を協議、25日は副会長と農林省を訪問し、鶏卵輸入税免除反対を陳情、26日も同問題にて外務省、大蔵省を訪問した。27日は帝国大学学友会、社会研究会の招きにより農村問題の話をなした。28日には土浦に行き、小畑農場を視察した。

7月も温は帝農幹事として種々業務に従事し、また、講演や農業経営の視察に出張した。6月30日から7月3日まで帝国農政協会の委員会を開き、農村振興費について協議し、4日は米生産費の調査、5日から温は著書を出すことを決め、執筆を始めている。7日は米生産費の手入れをし、また、この日午後6時より講農会幹事会を開いた。8日は午後1時より鉄道協会にて帝農評議員会を開催し、志村、桑田、横井、安藤らが出席し、三土忠造農林次官参列の下、自作農創設案の審議を行い、午後6時から農政研究会幹事会を開き、高田、青木、村上、松山、池田らが出席し、自作農創設案について協議した。9日は鉄道省を訪問し、八田嘉明建設局長に和気停車場問題で面会、10日は午後6時より帝国地方行政の改造協議会に出席した。

7月11日、温は栃木県農会主催の町村農会経営講習のため塩原町に出張し、翌12日午後1時より3時まで塩原町小学校にて講義を行った。また13日も午前8時より午後4時半まで終日講義した。そして、14日に帰京した。

7月16日から、温は愛知、岐阜、石川県に農業経営視察のために出張の途についた。この日午後11時発にて出発し、翌17日朝7時豊橋に着した。そして岡崎に行き、西尾線に乗り三江島で降り、三和村の辻村氏の農場を視察し、後、西尾に宿泊した。18日は安城町に行き、共同農場や産業組合等を視察し

た。終わって、名古屋に宿した。19日は諏訪原共同経営を視察。20日は岐阜県可児郡中村に行き、共同経営を調査。21日は岐阜県恵那郡遠山村に行き、三宅利八氏の住宅を視察した。その夜7時25分中津町を出て、金沢に向かい、翌22日午前7時40分金沢に着した。23日は石川県石川郡郷村の東三日市共同経営を視察。24日は小松町より1里の平田政蔵氏の経営を視察。終わって、金沢市に戻り、夜7時半発の急行にて帰京の途に着き、翌25日午前10時過ぎ帰宅した。

7月27日、第5回農政研究会在京幹事会を開催し、荒川、川崎、松山ら出席の下、自作農創設問題を協議し、翌28日、農政研究会幹事会を開催し、荒川、川崎、松山、赤間、三輪、山口左一ら出席の下、自作農創設案を決定し、一同農林省を訪問し、三土忠造農林次官に陳情した。29日、矢作副会長とともに農林省を訪問し、郡農会存続、町村農会技術者補助の陳情。30日は終日原稿（農業経営視察）を執筆した。

7月27日、護憲3派内閣で、憲政会と政友会の対立が激化した。この日、税制整理問題をめぐって紛糾し、政友会の小川法相、岡崎農相が退席し、護憲3派内閣が危機に瀕した。「日記」に「本日ノ閣議ニテ税制案ニツキ政友、憲政協調決裂ス」とある。そして、31日、加藤高明内閣は、閣内不統一のため、総辞職した。

8月1日、大命は野党の政友本党ではなく、憲政会の加藤高明に再び降下した。この日の「日記」に「今朝、大命加藤子爵ニ降ルト観測サレシガ、牧野子西園寺訪問ニヨリ混沌トシテ本党降下ノ観測多シ。然ルニ内相帰京、午後五時大命加藤氏ニ降下。政本提携ノ策士馬鹿ヲ見ル」とある。そして、2日に第2次加藤高明内閣が成立した。憲政会単独内閣であった。議会では少数の内閣となった。新農林大臣には早速整爾が就任した。3日、温は早速整爾農林大臣を自宅に訪問、挨拶し、帝農に出勤している。そしてこの日、幹事会を開き、来年度予算について協議している。

8月、温は出張と講演の連続であった。8月6日、温は午後11時東京を發

し、愛知、山口、愛媛、長野等での講演のため出張の途についた。7日午前9時15分名古屋に着し、大野町に行った。翌8日、温は大野町小学校において、愛知県農会主催の夏期大学に臨み、来会者130余名に対し、午前8時より正午まで講演を行った。終わって、修了証書を授与し、慰労会の後、名古屋に出て4時30分発の特急にて山口県小郡町に向かい、9日午前7時小郡町に着し、更に湯田温泉に行き、松田旅館にて休養した。翌10日、温は小郡町に戻り、小郡町会議事堂において山口県農会主催の農業経営講習会に臨み、来会者270余名に対し、午前10時半より午後1時半まで講演を行った。終わって、山口町に行った。11日、温は豊浦郡小月村に行き、同村明円寺において、豊浦郡、美弥郡、厚狹郡の有志220余名に対し、8時半より12時半まで講演を行った。終わって、直ちに阿武郡萩町に向かい、萩では松陰神社、松下村塾等を見学。翌12日、温は、阿武郡役所において、来会者100余名に対し、午前9時より12時半まで講演を行った。終わって、柳井津に向かった。13日、温は柳井津町小学校において、来会者250余名に対し、午前8時20分より12時まで講演を行った。終わって、温は愛媛に帰郷の途につき、広島、宇品をへて、夜9時過ぎ帰宅した。

郷里に帰郷後も温は多忙であった。8月14日午前、温は県農会に行き、県内講演の打ち合わせを行い、午後1時半松山発にて自動車で大洲に向かい、途中内子の親戚芳我清蔵家に立ち寄り、5時大洲に着き、小西旅館に投宿した。この日は肱川に船を浮かべ休養した。翌15日、温は大洲村小学校講堂において、高等農業補習学校生徒ならびに11カ町村の青年、在郷軍人ら有志200余名に対し、午前7時半より12時半まで、農政及び農業経営について講演を行った。温はこの講習に対し「同村稀有、盛況ナリシ」と記している。終わって、午後4時30分大洲発にて、自動車帰宅した。16日は松山高等学校講堂において、帝国農会主催の講習会を開催した(～19日)。この日、温が8時より12時まで「農業経営と農政」と題して講演し、午後は1時間半ほど税制整理問題について講演した。17日は那須博士、大石氏が講演し、18日も午前那須博

士、大石氏が講演し、午後は温が1時間ほど「無産政党と農政」と題し講演した。19日、午前那須博士が講演し、12時に講習会が終了し、温が閉会の辞を述べた。終わって、那須博士とともに余土村、石井村を訪問し、石井村では那須博士が村民550余名に対し、講演を行った。終わって、那須博士を高浜に見送った。20日、温は愛媛県郡市農会技術者協議会に出席し、また、午後は道後ホテルにて毛織物会社設立の協議会に出席した。21日は石井村大字南土居の部落の人たちを集め、農業経営について講話を行った。22日は来客に対応し、午後道後ホテルに行き、県農会の技術者と会合。23日は午後生石小学校に行き、生石の青年200余名に対し、講演を行い、夜は道後ホテルにて、支持者の仙波茂三郎、大原利一と来る衆議院選挙に対する打ち合わせを行った。24日は在宅し、上京の準備をした。

8月25日、温は午前10時石井を出て、松山では知事官邸、警察署長、県農会等に挨拶し、高浜に出て、支持者、農会関係者の仙波、松田、多田、門田氏らの見送りを受け、上京の途についた。途中長野に寄り、26日午後5時20分長野に着した。翌27日、温は長野県中学校における長野県農会主催の高等農事講習会に出席し、郡村技術者その他有志200余名に対し、午前8時40分より零時30分まで農業経営と農政について講義した。午後は矢作副会長が講義した。28日も温が午前8時40分～12時半まで講義し、昼食後農事試験場や蚕業試験場を参観し、12時6分長野発にて、帰京の途につき、翌29日午前7時東京上野に着した。温は一旦帰宅後、帝農に出勤した。30日は築地本願寺に行き、全国布教師講習会(27日より開催中)に出席し、午前8時より12時まで本願寺の布教師50余名に対し、農業関係の講習を行った。

9月も温は種々業務を行った。1日、横井時敬先生を訪問し、帝農大会及び越智郡講習の件について依頼、2、3日は大正15年度帝農事業及び予算の項目を作成、4～6日は原稿(農村の文化生活)の執筆等、7日は鉄道省、8日は農林省を訪問、9日は原稿(読売新聞への講話)の執筆、また、岡田東京市助役を訪問し、娘禎子の仕事を依頼するなどしている。10日は午前、米生産

費調査の作表，午後は幹事会を開き本年度予算更正の件，明年度事業の協議等。11日も米生産費調査の作表等を行った。12日，温は午後1時上野発にて福島県に出張の途につき，8時50分若松市に着した。翌13日，温は若松市公会堂にて開催の農会経営講習会に出席し，午前9時半より午後3時まで講演を行った。14日も午前9時より午後1時まで講演を行った。終わって，阿沼郡郡役所にて小林氏より大経営並びに大家族統制に関し意見を聞き，金山村の小林宅を訪問，視察し，若松に帰り，午後10時50分発にて帰京の途につき，翌15日午前8時半帰宅した。16日出勤し，米生産費調査の改稿等，17～20日は体調を崩し，休養。なお，18日帝国議事堂が失火のため焼失している。21日出勤し，福田，高島両幹事と帝農予算の内容を協議，22日は矢作副会長と明日の評議会問題の協議等。23日は終日原稿（農家の住宅）の執筆，24日は評議員会を開き，志村，安藤，横井，山田敏，山田恵一，山口左一，八田宗吉ら出席のもと，午前9時から午後4時まで開いた。25，26日も評議員会を開き，明年度予算，等を決定した。27日は終日在宅し，著書の目次を考案，28日出勤し，米生産費調査を執筆し，午後5時より農政研究会幹事会を開催し，川崎，高田，谷口，東，松山らの議員，帝農側からは矢作副会長，福田，大石が出席し，温が従来の経過を説明し，対議会对策を協議した。そして，明日農林，逓信省を訪問し，自作農創設と関税の問題を陳情することにした。29日，出勤し，午前は米生産費調査を執筆し，午後は農政研究会の幹事らと，農相官邸を訪問し，早速農林大臣に自作農創設と関税問題を陳情している。30日，米生産費調査を執筆等した。

10月も温は帝農の種々業務を行い（農業経営調査，帝国農会総会の準備等），また，出張し，講演等を行った。1日は原稿の手入れ（福島での講習会），2日は逓信省と文部省を訪問，3，4日は原稿手入れ，執筆等。5日は農業経営調査集計様式を考案，また，原稿（農村の住宅）を執筆等。この日，新正倶楽部の代議士会があり，出席。6，7日も農業経営調査集計様式の考案等。8日は群馬県勢多郡富士見村に出張し，時沢小学校における農学科教育法

の研究会に出席し、来会者300余名に対し、2時間40分にわたり、農村振興問題について講演し、終わって、5時20分前橋発にて帰京の途につき、9時半帰京した。9日は農業経営調査様式の作成、帝国農会総会提出の建議案の作成等に従事した。10日、温は午前8時20分発にて福井県農政協会総会に出席するため出張の途につき、午後11時50分福井に着した。温は汽車中にて、帝農総会提出の建議案と3派の税制整理案の批判文を草している。翌11日温は午前永平寺を参詣し、午後福井にて福井県農政協会総会に出席し、来会者70余名に対し、第50議会以来の時事問題について講演した。終わって、午後4時50分発にて帰京の途に着き、翌12日午前10時20分帰宅した。13日、帝農にて農会販売斡旋所主任、農会主任技師会を開いた。この会合に関西農会連合会の運動委員（松岡、管野、大島、麦生）も出席し、協議した。翌14日、温は関西農会の運動委員と農林省、逓信省、大蔵省、内務省を訪問し、決議事項の陳情を行った。また、15日も内務省と大蔵省を訪問し、陳情した。その後、帝農総会提出の建議案（農産物関税、農村教育、農業統計に関する建議案）を執筆した。16～19日は生産費調査表の作成、また、総会提出建議案の精読等を行った。20日は11時半から帝国ホテルにて、上京した松山市と隣村の合併委員（倉根松山市助役等）と愛媛選出の代議士（高山、河上、杉、成田、須之内、深見、温）との会合に出席し、認可の運動方法等について協議を行った。21日は生産費調査の作表を行い、午後は古在東京帝大総長を訪い実科問題について協議。22日も生産費調査の作表等を行った。なお、この日、成田代議士が温を訪問し、松山市問題の不可を説いている。温は「日記」に「馬鹿ナ男ナリ」と記している。この日午後5時より農会にて交友会の会合があり、出席している。23日は上京中の香坂知事を訪問、また、帝国ホテルにて海南新聞改革後の拡張問題についての会合に出席、24日は農業大学昇格祝賀会に出席し、午後は幹事と総会提出の建議案についての協議、25日は日曜であるが、帝農評議員会を開催し、山田敏、山田恵一、斎藤、山口、秋本、横井、安藤、山内、藤原ら出席の下、帝農総会議案を協議した。また、26日も評議員

会を開催した。

10月27日から30日まで第16回帝国農会通常総会が開催された。27日午前11時総会が開会し、大木会長の挨拶、矢作副会長が議長席に着き、議事を進めた。この総会には農林大臣から「農家ニ家畜家禽ノ飼養ヲ普及セシムヘキ適切ナル方法如何」の諮問案が出された。また、帝農からの建議案として、「自作農維持創設ニ関スル建議」「農産物関税ニ関スル建議」「海外移民政策ニ関スル建議」「家畜保険法制定ニ関スル建議」「肥料政策改善ニ関スル建議」「郡農会技術員ニ対シ国庫補助ニ関スル建議」「町村農会技術員設置ニ対シ国庫補助ニ関スル建議」「農村ニ於ケル電力利用ニ関スル建議」「農耕地山林ニ対スル鉅毒煙害救済ニ関スル建議」「農業技術官優遇ニ関スル建議」「農業者ノ負担軽減ニ関スル建議」「農業低利資金ニ関スル建議」「農業統計改善ニ関スル建議」「小作法制定ニ関スル建議」「国立農具研究所設置ニ関スル建議」「農村教育改善ニ関スル建議」「耕地政策ニ関スル建議」「農業倉庫業法改正ニ関スル建議」が出されている¹⁸⁾。夜は上野精養軒にて招待宴会が行われた。28日、帝国農会総会の委員会を開き、諮問案と建議案を協議し、29日の総会ですべての議案を議了し、午後3時に終了した。あと、評議員会を開き、5時より中央亭において早速農林大臣の招待会に出席した。30、31日は明治神宮における全国青年の競技大会を参観した。

11月も温は多忙であり、また、講演のために出張した。1日は帝国農政協会の総会、委員会を開催し、協議を行った。愛媛からは門田、日野、宮脇、村瀬、高石らが出席していた。2日も帝国農政協会に出席し、協議を続け、午後5組に分かれ、農林、大蔵、文部、各政党へ陳情を行い、温は農林省を訪問し、小山松寿政務次官に陳情した。夜は、愛媛より上京した門田らと芝琴末町晩翠軒にて食事をしている。3、4日は休暇をとり、小作料に関して研究をなし、那須博士の公正なる小作料、河田博士の農業労働と小作料を精読してい

18) 『帝国農会史稿 資料編』820～843頁。

る。5日は出勤し、午後矢作副会長と農林省を訪問し、小山次官に面会し、特に農会技術者補助の件を依頼した。6日は生産費調査の手入れ、7日は帝農職員一同と熱海温泉に行き、8日は江ノ島を遊覧し、午後6時帰宅した。9日は出勤し、米生産費調査の起稿、10日も米生産費起稿。また、農林省に行き高田参与に面会し、下級農会技術員補助の件について、情報を得ている。下級農会技術員の補助については、大蔵省で削られたが、昨夜35万円に減じて復活交渉し、大蔵省の査定を通過したとのことであった。11～18日も米生産費原稿起草等をなす。その間、15日には農科大学運動会の参観、久松定武氏の結婚披露宴、16日には上野公園にて開催の産業共進会賞状授与式に出席などしている。

10月19日、温は午後8時半上野発にて秋田、山形県での講演のために出張の途についた。20日午前8時40分新潟に行き、秋田行きに乗り換え、午後5時本庄町に着した。翌21日、温は午前園芸懇談会に出席し、午後1時より2時半まで「農業経営の研究」と題して講演を行った。22日は午前7時50分発にて本庄町を出発し、山形に向かい、午後3時半山形に着した。翌23日山形県農会主催の農会経営研究会に出席し、郡村農会役員及び技術者150余人に対し、午後1時より3時まで温が講演を行った。夜は千歳楼にて県農会の晩餐会に出席した。また、24日も同研究会に出席し、午前11時より午後1時まで講演を行った。終わって、物産陳列館、農事試験場、千歳村の自作農家などを参観し、夜、帰京の途に着き、25日午前8時40分上野に着し、帰宅した。この日に、午後1時より下岡忠治（朝鮮政務総監）の告別式、5時より交友会幹事会、6時より松山倶楽部の会合に出席し、温が農村問題について講話している。26日は農業経営審査会の準備をなし、午後は帝農幹事会を開き、明年度事業、大会決議事項等の協議、27日も農業経営審査会の準備等。28日は帝農にて、農業経営設計審査常置委員会を開催し、横井時敬、安藤広太郎、佐藤寛次、木村修三、清水及衛委員出席の下、午前10時過ぎから午後4時まで協議している。29日も経営審査常置員委員会を開いた。しかし、議論はまとまらな

かった。温は「日記」に「年々ノ設計ノ変更問題ニ付議論起ル。例ニヨリ根本論ニ入ツテ決セズ。…設計ニ対スル審査ハ不相変要領ヲ得ズ」と記している。30日、午前10時20分より農業経営設計審査会を開会した。温が審査事務及び視察状況を報告、また、横井博士が常置委員会の報告を行い、午後は中込、飯塚両君の視察状況の報告等があった。12月1日も農業経営審査会を開き、数県の審査を行った。温は「日記」に「横井、佐藤、安広氏欠席ノタメ稍真面目ナリシ」と記している。

12月も温は帝農の種々業務、原稿の執筆、また、経営視察、講演のために出張を行った。3～5日は米生産費調査書の訂正、6日は「産業機関の統一」(25枚)「農民労働党について」(10枚)の執筆等を行った。7日午後5時より帝農評議員を開き、横井、志村、安藤、佐藤、那須、加賀山、神戸、山口、秋本、桑田らの出席の下、総会決議の建議事項について協議し、小作法制定、土地制度の確立、肥料政策の確定、農業教育の4問題について特別委員を置き、具体案作成を決めた。

12月8日、温は午前6時東京発にて静岡県へ農業経営視察に出張した。11時三島に着き、自動車にて中郷村に行き、同村井の長沢栄太郎氏の経営(米麦、養蚕、乳牛)を視察し、その日は沼津に宿泊。9日は午前8時沼津を出て、三重県四日市に行き、さらに電車にて菰野で降り、湯ノ山温泉に行き、投宿。10日午前8時半宿を出て、三重県鵜川原村に行き、位田藤吉氏の経営(小経営)を視察した。その後、温は小学校にて農民に対し、講演を行った。終わって、4時半津市に行き、県農会の主催による晩餐会に出席し、投宿。11日午前8時半宿を出て、自動車にて白子町に行き、農事試験場、長谷川農場等を視察した。その夜8時津を出発し、帰京の途につき、翌12日午前9時東京に着し、帰宅後は、原稿(「産業機関の統一」)の清書、改定を行った。13日は午前10時上野発にて千葉県東葛飾郡千代田村に行き、柏小学校における千葉県農会主催の講演会に出席し、午後1時より講演を行った。その夜は成田町に行き、宿泊。翌14日は成田不動、宗吾神社に参詣後、佐倉に行き、印旛郡役所

にて来会者100余名に対し、午後2時より講演を行った。終わって、午後5時50分発にて帰京の途につき、8時半帰宅した。15日は不在中の雑務をなし、午後5時より講農会幹事会に出席。16日～18日は種々原稿の執筆（農村文化の促進）等を行った。19日は農林省を訪問し、小山次官に面会し、米買上げにつき陳情した。米買上げについては、早速農林大臣が「毎日考慮中」とのことであった。20日は著書の農業経営の冒頭を起草した。22日は八基村長らが来訪し、神田青物市場の視察を案内し、夜は帝農の忘年会（帝劇の見物）を行った。23日は旧中正倶楽部代議士会に出席。24日は新正倶楽部の代議士会に出席した。

12月25日、第51回帝国議会が召集された。第2次加藤高明憲政会内閣は、議会では少数のために、議会を切り抜けるために、政友本党と提携していた。26日、温は午前10時登院し、11時撰政官殿下の御台臨の下、開院式が挙行され、勅語を賜り、あと、勅語奉答文起草委員の選挙、奉答文の決議を行った。また、午後5時より新正倶楽部の記者招待会に出席した。27日は帰国のみやげ物の買物をしたが、懐中をすられている。28日、温は午前10時登院した。この日、全院委員長、常任委員長選挙が行われた。憲政会と政友本党が提携し、常任委員は議席按分となり、全院委員長に多木条次郎（無所属、後に政友本党）、予算委員会は憲政会、決算委員会は政友会、請願委員会は政友本党、懲罰委員会は新正倶楽部が委員長となった。温は「日記」に「右ニテ本議会ハ無事カ」と観測している。その夜午後八時東京発にて帰国の途に着いた。29日尾道に下車し、8時高浜に着し、帰宅した。30日松山市に行き、買物。31日、迎年の準備。だが、この日も温は原稿（土地問題につき）を執筆している。

第2節 講農会、東京帝大農学部実科独立運動関係

温は講農会会長を続けている。2月18日に講農会幹事会を開催し、藤巻雪生、飯岡清雄、渡邊保治、藤浪楠太郎、高洲俊介、谷口俊一が出席し、原先生祝賀会寄付金分配問題などを協議している。7月7日にも講農会幹事会を開

き、藤巻、飯岡、高洲、藤浪、谷口、阿部喜之丞、小林隆平が出席し、14年度予算、幹事改選等を協議している。10月3日には青山の広徳寺にて講農会の追悼会を開いている。

東京帝大農学部実科独立運動関係では、2月4日、温は予算分科会で、大学復旧予算に関する質問と同時に農学部移転に伴う実科の処置如何について、岡田良平文相に質問している。そこで、岡田文相から「農学部が移転する際、実科を本郷に共に移転する事は実科従来¹⁹⁾の歴史に見ても又実科の性質から見ても共に不得手であるから実科は他に移転して独立させる意志である」¹⁹⁾との良き答弁を得ている。この日の「日記」にも「予算分科会、午前十時ヨリ午後四時半迄出席。七分科ノ文部ト、二分科ノ内務ニテ発言ス。文科(ママ)ニテハ実科問題ヲ質問ス。両科共、大臣ノ説明ニテ稍満足ス」とある。そして、4月29日には、温は丸毛信勝とともに文部省を訪問し、松浦鎮次郎次官に面会し、実科の実情と独立の急なることを要請した。温は印象として、「大ニ動キタルモノノ如シ」と感じている。その後、東京帝大に行き、古在由直総長にも面会し、さらに駒場に行き、農学部長の町田咲吉にも面会した。町田氏は前学部長の川瀬善太郎よりも印象がよかった。「駒場ニ行き、町田氏ト会談ス。同氏ハ初メテノ会談ナレドモ川瀬氏ヨリ要領ヲ得タリ」。さらに、5月25日には、温は、小野重行(憲政会代議士)、原鉄五郎、丸毛信勝の4人で大蔵省を訪れ、早速整爾大蔵政務次官及び田次官に面会し、実科独立を要請を行った。田次官の答弁は「大ニ要領ヲ得」であり、ついで、文部省を訪問し、岡田文相と鈴置次官に面会し、震災復興費中より実科独立の建築費を支出することを要望し、やはり良き答弁を得ている。この日の「日記」に「文部ニ行き、鈴置次官ト岡田文相ニ面会シ、復興費中ヨリ建築費ヲ支出スル外ナキヲ説キ、文相決意ヲ示サル。具体的ニ進ム」とある。10月21日、温は帝大総長古在由直を訪問し、実科問題を談じた。翌22日、帝農にて駒場交友会を開き、原鉄五郎ら

19) 駒場交友会『母校独立記念号』248頁。

多数が出席し、温が今までの運動の経過と今後の対策を話している。

駒場交友会は実科独立運動とともに、実科の内容改善にも取り組んだ。12月15日、温は講農会幹事会を開き、学生も列席し、実科の内容改善の相談をし、具体案も作成している。そして、25日、温は原鉄五郎、丸毛信勝と共に東京帝大に行き、古在総長、町田咲吉農学部長に面会し、実科の内容改善について働きかけた。町田学部長は誠意を持って対応した。この日の「日記」に「大学ニ行き総長ニ面会ス。町田学部長先ツ至リ五人ニテ大分打解ケテ談ス。殊ニ町田氏ハ誠意ヲ以テ対応セラル。大ニ要領ヲ得タル」とある。

第3節 家族のことなど

家族関係では、長女の末光清香（明治28年3月21日生まれ、29歳）は末光家で、子供3人を育てている。

次女の禎子（明治35年2月2日生まれ、22歳）は、東京帝国大学心理学科の聴講生を続け、心理学を学び、また、戯曲を書いている。

4女の綾子（明治41年10月1日生まれ、16歳）は、愛媛県立松山高等女学校に通っている（大正10年に入学）。

長男の慎吾（大正元年8月23日生まれ、12歳）は、3月石井小学校を卒業し、松山中学校に入学した。3月23日「慎吾、中入及第ノ電報アリ」。翌24日温は岩崎一高松山市長に慎吾の保証人を依頼している。そして、中学生となった慎吾に5月16日には自転車、9月23日には時計を送っている。11月25日に慎吾から手紙が来て、それに対する感想として、温は「慎吾ノ手紙ハ子供期ノ終期。心身ノ変化期ヲ窺ハル」と「日記」の欄外に記している。

自宅農業関係では、母を説得して、耕作の縮小を決断した。5月15日の「日記」に「母上ヲ説伏シテ、前田二枚ノ外、耕作ヲ止ムルコトトセリ。…今年迄浦田ト小田ヲ作レリ」とある。

親族関係では、新宅の叔父岡田義朗の家産整理のため、1月3日、温宅では今在家田1反2畝25歩、屏風などを購入している。

第6章 大正15年

大正15年(1926)、温55歳の年である。帝国農会の幹事を続けている。衆議院議員も務め、双方の仕事で極めて多忙である。本年は大戦後の農業、農民、農村の危機が続き、温は帝国農会幹事及び衆議院議員として、帝国農会の業務(農業経営改善のための調査や講演等)や農村振興運動等に取り組んだ。また、第51議会では、衆議院議員として関税問題や地租問題などでよく発言した。

大正15年も政界の離合集散は激しい。第2次加藤高明憲政内閣は第51議会を乗り切るために、政友本党(総裁は床次竹二郎)と提携した。それに激昂したのが、政友本党内の政友会との合同派であった。政・本合同派の鳩山一郎ら21名は、1月15日、政友本党を脱党し、同交会を結成し、2月12日には政友会入りをした。その結果、政友会が拡大し、憲政会の議席に接近し、政友本党は落ち込んだ(大正15年3月25日現在、憲政会165、政友会164、政友本党87、新正俱樂部26、実業同志会9、無所属16、計464)。温は、引き続き、新正俱樂部に属した²⁰⁾

第1節 帝国農会幹事・衆議院議員活動関係

大正15年(1926)の正月は故郷で迎えた。1日は石井小学校における拝賀式に出席し、また、南土居部落の新年宴会に出席し、それぞれ一場の講話を行っている。本年は松山市会議員、石井村会議員選挙の年である。2日、温は松山市に行き、温の支持者で市議に立候補している石丸富太郎を応援している。4日に松山市会議員の選挙が行われ、石丸が当選している。また、4日に石井村会議員選挙があり、大字南土居からは叔父の岡田義朗が再選されている。5日伊予郡郡中町に行き、支持者の宮内長らと会合し、伊予郡農友会の今

20) 升味準之輔『日本政党史論』第5巻、東大出版会、110～113頁。

後の運動について協議している。6日は久松別邸，7日は知事官邸，県農会の門田晋，等を訪問し，午後2時半発にて今治に行き，宿泊。翌8日午後越智郡農会主催の講演会に出席し，町村農会長や同技術者らに対し，農会経営について講演した。終わって，6時発の汽車にて帰宅した。9日午後2時より道後ホテルにて農友会最高幹部会を開き，仙波茂三郎，宮内長，渡邊好胤，大原利一，松田石松，石丸富太郎，隅田源三郎らと会合し，農友会の今後の運動方針について協議した。温は自分の引退を述べたが，容れられなかった。10日は大原が来訪し，農友会費1,300円のうち温が600余円を引き受けることを決めている。11日は県庁，温泉郡農会，県農会等を訪問し，12日は松山市役所，県庁，温泉郡役所等各方面を訪問した。

1月13日，温は東京で活動のため，11時石井発にて出発し，松山駅では仙波，隅田，松田，大原，石井らに見送られ，上京の途についた。14日12時20分東京に着き，以降，温は帝農幹事として，また，衆議院議員として種々活動を行った。15，16日は農家家計調査，税制整理案の免税点の研究を行い，18，19日は帝農幹事会を開催し，来る府県農会長会議の準備を行い，20日は農林省にて農事試験場長会議に出席し，農会の立場から発言した。

1月21日，第2次加藤高明憲政内閣下の第51回帝国議会在が再開した。この日，温は午前登院し，新正倶楽部の代議士会に出席し，午後1時本会議に出席し，加藤高明首相の施政方針演説，また，浜口蔵相の財政演説，幣原外相の外交演説を聞いた。あと，野党側の山本悌二郎(政友会)，松田源治(政友本党)，武藤金吉(政友会)らが質問戦に立った。翌22日も本会議があり，吉植庄一郎(同交會)，山崎達之輔(政友会)らが質問に立ち，大いに気焰をあげていた。午後6時から帝農にて農政研究会幹事会を開き，松山，高田，荒川，山内，八田，池田，谷口，岡本ら出席の下，関税問題について対策を協議した。23日も本会議が続き，武藤山治(実業同志會)，安藤正純(政友会)らが質問に立った。温は帝農での農業経営に関する協議会に出席のため退席し，夜は帝農在京評議員会を開催し，長田桃蔵，秋本喜七，桑田熊蔵，八田宗吉，山内範

造ら出席の下、道府県農会長協議会の議案等を協議した。24日は日曜日で原稿（「如何ニ自覚スル」）の執筆。25日から帝農にて道府県農会長協議会が開催された（～28日）。25日の午前、温が農業経営その他について説明し、午後は議院に登院した。この日、政府側から税制整理に関する諸法律案（所得税法中改正法律案外18件、地租も減税の提案）が提出された。それに対し、野党側の政友会が「市町村税地租法案」（山本悌二郎外13名提出、地租委議案）を提案し、三土忠造が提案説明し、論戦が行われた²¹⁾。26日も道府県農会長協議会が続いた。なお、この日、向かいの保険協会にて全国町村長会が開かれており、そこで、郡農会廃止問題が提案されたため、温らが交渉に行った。そのあと、温は登院し、本会議に出席した。この日、政府側から関稅定率法改正法律案が提案された。浜口大蔵大臣が趣旨説明し、明治43年以来の全般的な関稅改正であり、国内の重要産業の保護、ならびに、消費者の利害を考慮して、農産物の関稅は輕減または据え置きを説明した²²⁾。農会側から見ると、商工偏重で農業を輕視する改正法律案であった。政友本党の岩切重雄、政友会の土井権大らが農産物の関稅引き上げなどを主張する意見が出され、あと、委員会に付された。温も委員になった。27日午前登院し、関稅定率法改正委員会（以下、関稅改正委員会と略）に出席し、委員長選挙を行い、加藤政之助を選出した。終わって、帝農における道府県農会長協議会に出席した。夜5時より鉄道協会にて、道府県農会長招待会を開き、関稅定率法改正に関する運動方法を協議し、大いに意気をあげている。28日は道府県農会長協議会の最終日で、次の事項「産業各種機關ノ連絡ニ関スル決議」「郡農会ノ發展ニ関スル決議」「農会販売幹旋所ニ関スル決議」を決議した²³⁾。午後は運動方法を協議した。なお、この日、午前8時20分加藤高明首相が俄かに逝去し（67歳）、内閣総辞職となり、議会は28日から31日まで停会となり、翌29日憲政会の若槻礼次郎に

21) 『大日本帝国議会史』第16巻、527～538頁。

22) 『大日本帝国議会史』第16巻、596頁。

23) 『帝国農会史稿 資料編』1019～1021頁。

大命が下った。29日午前、温は帝農評議員会及び特別議員会を開催し、神戸、安藤、横井、佐藤、那須、加賀山、月田、山内、三輪、原委員らの出席の下、小作法、農業教育制度調査組織について協議している。30日、温は道府県農会長会議の滞京メンバーを招集し、関税込率法改正委員会委員訪問の報告を聞き、今後の打ち合わせを行った（2月3日に農政研究会の幹事会を開き、10日に全国農会大会を開催すること）。なお、この日、若槻礼次郎憲政会内閣が成立した（前内閣の閣僚全員留任）。

2月1日、停会明けの本会議が再開された。温は登院した。この日、若槻礼次郎首相の簡単な施政方針演説があり、そこで、前内閣の予算案は撤回され、再提出することが表明された。ついで、質問戦に入り、田淵豊吉（無所属）、小川平吉（政友会）らが質問に立った。小川平吉は満州問題、前年の郭松齡事件を取り上げ、幣原外交の「不干涉主義」、 「軟弱外交」を攻撃し、それに対する幣原外相の答弁をめぐって、議場が騒然となっている。2日は故加藤高明首相の葬儀に出席。3日は午前関税改正委員会に出席、午後は本会議に出席した。また、この日夜6時より帝農にて農政研究会幹事会を開催し、荒川、谷口、村上、三輪、東郷、山内、長田、松山の各幹事が出席し、関税改正（農産物の税率の引き上げ）を協議した。4日は午前関税改正委員会に出席、午後は本会議があったが、温は用事のために欠席し、帝農にて業務を行った。5日は午前10時より午後5時まで関税改正委員会に出席し、この日、温は午後1時20分より3時まで、政府提出の関税改正案の根本方針（商工業保護、農業軽視）に疑義を表明し、農業者保護の立場から農産物関税の引き上げを主張した²⁴⁾。6日は午前関税改正委員会に出席し、午後は税制整理委員会を傍聴した。7日は終日、関税改正委員会の準備。8日は午前10時より午後4時まで関税改正委員会に出席した。この日の夜6時より帝農にて農政研究会幹事会を開催し、加藤政之助ら14名が出席し、明日の総会に関する打ち合わせを行っ

24) 「関税込率法中改正法律案委員会議録」第4回。大正15年2月5日。

た。9日も関税改正委員会に出席。この日午後6時より生命保険協会にて農政研究会総会を開催した。70余名が出席し、温が開会の挨拶及び総会の幹旋を行った。10日、帝国農会は鉄道協会にて、農産物の関税引き上げを要求する全国農会大会を開催した。全国から200名ほどが出席し、午前は矢作副会長が関税定率法改正の必要性について1時間余り説明し、後、次のような大会宣言を決議した。「農村振興ハ今ヤ朝野ノ輿論トシテ重要視セラル、ニ至リタリト雖、産業政策中尚此レニ副ハザルモノアルハ誠ニ遺憾トスル所ナリ。今次政府ヨリ提出セラレタル関税定率法改正案ノ如キ国家産業ノ保護ト社会政策トヲ基礎トシテ立案セリト称スルモ、其ノ内容ヲ檢スルニ商工業ヲ偏重シテ農業ヲ輕視シ、特ニ社会政策ニアリテハ都会民ノミヲ考慮シテ農民ヲ顧ミズ、如斯ハ農村振興上著シキ欠陥ヲ齎スノミナラズ、食糧政策ノ根底ヲ危殆ニ導クモノニシテ国家ノ不安定ヨリ大ナルハナシ。茲ニ全国農会大会ヲ開キ農会多年ノ主張ニ基キ我国農業ノ基礎ヲ確立スル為農産物関税定率改正ノ必要ヲ絶叫シ以テ社会ノ公正ナル批判ニ訴ヘントス」。そして、農産物の関税率を、米及粃每百斤2円、小麦每百斤2円、大豆每百斤1円40銭、小麦粉每百斤4円80銭、牛肉每百斤5円、豚肉每百斤8円、鳥卵每百斤8円に引き上げることを決議した²⁵⁾。これらの関税率は、政府の関税定率法改正案のほぼ2～2.5倍であった(政府の関税定率法改正案では、米が1円、小麦が77銭、大豆が70銭、小麦粉が1円85銭、牛肉2円、豚肉4円、鳥卵4円50銭であった)。午後は討論に移り、憲政会の町田忠治、政友会の三土忠造、政友本党の川原茂輔が政党を代表して発言し、又地方代表も数名演説した。本日の大会を温は「大成効〔功〕ナリシ」と「日記」に記している。11日は全国農会代表者が自県代議士を訪問、農産物関税引き上げを陳情し、翌12日は午前はその報告、午後は衆議院図書館にて、各政党幹部の出席を求めて関税の修正を陳情した。13日は午前、午後とも関税改正委員会に出席した。なお、この日、本会議閉会后、秘密の新政倶楽

25) 「帝国農会史稿 資料編」1021～1022頁。

部代議士会を開き、税制整理案につき、新正俱樂部より仲裁案を出すことを協議している。14日は原稿（小麦関税引き上げ反対の駁論）を執筆するなどした。なお、この日、帝農会長の大木遠吉伯爵が死去している。14日は終日関税改正委員会に出席し、終わって午後5時より帝農にて在京評議員会を開催し、会長死去の善後策を協議し、副会長が代理することを決めた。また、6時より農政研究会幹事会を開き、農産物関税改正にかんし、長田、村山、東郷、松山の4名を選び、農産物の関税率を、米及粳は1円50銭、小麦1円50銭、大豆1円40銭、小麦粉3円70銭、牛肉、豚肉、鳥卵は現状維持とすることとし、秘密裡に運動することを決めた。16日は午前9時より緊急の新正俱樂部の代議士会を開き、税制整理について、新正俱樂部より仲裁案を出すことを決め、あと、温は関税改正委員会に出席した。17日は税制の法律案について研究、18日は終日関税改正委員会。19日も関税改正委員会があったが、大木伯爵葬儀のため欠席した。20日、午前は関税改正委員会に出席し、午後は本会議に出席した。本会議に税制整理案（所得税法改正法律案、地租改正案など）が上程され、元田肇委員長が委員会報告を行った。そこで、委員会では地租が原案では100分の4.5から3.5に1分軽減されていたのに、取りやめ、教育費国庫負担増に回したことを報告した。それに対し、温が質問に立ち、地租軽減と教育費の国庫負担増とは全然性質が違うのにそれを取り換えるのは疑義がある、地方税の中で地租の割合が大きくなる、営業税は軽減されていくのに地租がそのままとは不公平だ、などと農業者の立場から批判した²⁶⁾ 21日は午前関税改正委員会に出席し、午後は本会議に出席した。この日本会議で、税制整理案が討論に付され、政友会は反対したが、憲政会、政友本党の賛成、また、温所属の新正俱樂部も賛成し、可決された。22日、午後1時より新正俱樂部代議士会を開き、温が関税改正委員会の経過を報告し、意見の交換を行った。但し、賛否の態度は決めなかった。午後6時より帝農にて小作法調査委員会の第

26) 『大日本帝国議会議史』16巻、818～819頁。

1回目の会合を開き、矢作副会長、桑田、安藤、那須、山口左一ら出席の下で大方針を決めている。23日は午前関税改正委員会、午後本会議に出席した。この日、大正15年度予算案の委員会報告が上程され討議に付された。24日、午前関税改正委員会、午後本会議に出席し、予算案の採決がなされ、憲政会、政友本党の賛成で可決された。25日終日関税改正委員会に出席し、会議の最後に佐々木平次郎委員から、小委員会設置の動議が出て、可決し、委員長と各派2名の委員を選んだ。終わって、帝農にて農政研究会を開き、三輪、荒川、松山、長田、山内の委員及び地方の運動委員らと関税改正問題の打ち合わせ。26日は大蔵、農林、鉄道省等を訪問し、種々要望。27日は登院し、本会議に出席。28日は終日在宅し、関税改正にかんし、修正項目の考究を行った。

3月1日、温は午前関税改正の小委員会に出席したが、各党の態度未決定のため延期となった。2日も関税改正小委員会は延期となり、温は午後4時から帝農にて小作法調査会に出席し、安藤、那須、桑田らと協議した。3日も関税改正小委員会延期となった。4日本会議があり、出席したが、この日憲政会の中野正剛が田中義一政友会総裁の機密費問題ならびに田中陸軍大将を政友会総裁に担ぎ出した政友会幹部の小川平吉、小泉策太郎、秋田清、鳩山一郎の査問を要求して、騒然となっている。なお、この日の関税改正小委員会も延期となった。それは政友本党が関税の引き上げで強硬であったため、温は農会の威力が本党を動かし、痛快と感じている。「日記」に「本党ノ内部強硬論有力強クシテ政府妥協出来ス。為ニ小委員会延期トナル。探聞スル処ニヨレバ、本党ハ難問ヲ提出シ、米一円五十銭ニテ下院ヲ通過セシメ両院協議会ニカケル趣…。農会ノ威力カ遂ニ茲ニ至ラシム。痛快」とある。5日も政友本党と政府（憲政会）側の妥協は成立せず、関税改正小委員会は延期となった。「昨日来、床次、浜口両氏ノ会見ニテ妥協成立セザリシニヨル」。6日、本会議があり、出席した。この日の本会議には4日の中野正剛に対する政友会側の報復論が予想され、傍聴者が多かった。本会議では政友会の秋田清が中野正剛を査問すべしとの動議を出したが、憲政会の反対で成立しなかった。そのあと、農業倉庫

業法改正法律案（政府提出）が上程されたが、政友会側が腹いせに延会動議を出し、議事を妨害しつづけ、温は馬鹿馬鹿しくなり、途中退席している。なお、関税改正委員会もまた延期となっている。8日によりやく正式に関税小委員会が開催された。政友本党の岩切重雄が修正案を出した。それは小麦の関税を改正案の77銭を1円50銭に、小麦粉は改正案の1円85銭を2円90銭に、鳥卵は改正案の4円50銭を6円に引き上げるという、3品目だけの修正案であった。政友会の山本条太郎、吉津度が反対したが、他の6名が賛成し、可決された。温も賛成した²⁷⁾。その修正案について、温は「修正案ハ形式ニ於テ、精神ニ於テ農業者ノ全勝ナレドモ賢明ナル修正案ニアラズ。各員凡テ不満足ナル案ナリ。要ハ政府カ貴族院ノ修正ヲ恐レテ圧迫ヲ加ヘタルカ故ナリ」と述べている。9日に関税改正委員会が開かれ、政友会の議事妨害があったが、修正案が可決された。10日、関税定率法改正法律案が本会議に上程された。温は、本会議で発言するつもりで、朝、矢作副会長、福田、高島幹事に相談した。福田、高島は反対論であったが、矢作の激励を得て、登院した。しかし、同僚議員の山口左一、松山兼三郎が見合わせを要請し、質問の取り下げを行っている。この日の「日記」に「関税定率法改正ニ関シ新正俱樂部ノ代表演説ヲスルノ可否ニツキ、雨中帝国農会ニ行キ、副会長、福田、高島諸君ニ相談ス。副会長ハヤルヘシト賛シ、両幹事ハ反対又ハ沈黙ヲ可トストノ説ナリシモ、自分ハ副会長ノ勸ニカヲ得テ登壇ニ決心シ引返シテ出院ス。然ルニ山口君、松山君再ヒ見合セヲ勧誘セラレ氣挫ケテ演説ノ通告ヲ取消ス」とある。本会議で関税定率改正法律案が上程され、加藤委員長が委員会の報告（修正案）を行った。それに対し、新正倶楽部の畦田明が、新正倶楽部の多数は委員長の修正報告に賛成だが、畦田の信念として自由貿易論の立場、関税の引き下げ論の立場から反対を表明した。後、賛否の討論にはいり、憲政会の紫安新九郎の賛成、政友本党の田中隆三の賛成、他方、政友会の長田桃蔵は政友会の修正案の説明

27) 「関税定率法改正法律案（政府提出）各派打合会議録（第2回、3月8日）」（『第51回衆議院委員会会議録 下』）

(3品目のみならず、米など67品目にわたり関税引き上げ)、政友会の星島二郎が修正案に賛成した。そして、採決に付され、政友会の修正案が憲政会、政友本党の多数にて否決され、委員長の報告が多数にて可決された。温の態度は、政友会の修正案については賛否の態度は表明せず、委員長の報告には賛成したものと思われる²⁸⁾

3月11日、本会議があったが、温は欠席し、帝農で雑務、帝農職員の研修会(3月10日~17日)を視察した。なお、この日、議会では政友会から憲政会の中野正剛に対する「反省処決を促す件」が出され、休憩に次ぐ休憩、大混乱となり、また、場外では政友会の壮士と政友本党の壮士が乱闘となり、負傷者もでてゐる。12日、温は帝農に出勤し、帝農職員講習会に出席し、農会の精神について1時間ほど講演し、午後2時登院し、請願委員会に出席した。請願委員会では重信川改修の請願が採択された。13日、本会議があり、政友会により中野議員問題が議論され、延会となった。温は重要議案がないので帰宅している。14日(日)は帝国ホテルでの水政倶楽部発会式に出席。15日、温は日本勸業銀行法中改正法律案、農工銀行法中改正法律案(政府提出)の委員会に出席し、その改正(重要輸出工業組合にも貸し付ける)が、農村に不利となる点について質問した。終わって、午後5時より帝農にて開催の小作法調査委員会に出席し、また、7時からは新正倶楽部の懇談会に出席した。16日は本会議に出席し、帝農の事務員講習生を議会傍聴させている。17日は鉄道省、内務省を訪れ、和気の停車場問題を協議し、午後5時から講習生との懇談会等。18日は帝農の講習終了の授与式を行い、後、本会議に出席し、夜6時からは紅葉館での関税改正委員の懇親会に出席。19日、登院し、午前土地賃貸価格調査法案(政府提出)委員会に出席し、温も委員、理事となり、午後は帝農における、副会長、幹事、参事の会合があり、来る道府県農会職員協議会の議案

28) 政友会の修正案の賛否は記名投票でなされたが、温の名前はなく、賛成も反対もしていない。委員長報告の賛否は起立でなされ、起立多数であり、おそらく温も賛成した(『大日本帝国議会史』16巻、1058~1059頁)。

を協議した。20日は土地賃貸価格調査法案委員会に出席し、小作地の賃貸価格で自作地も類推するのはおかしい、と質問している。

3月20日、温は夜11時20分上野発にて長野県での講演のために出張の途についた。翌午前6時40分田中駅につき、自動車にて、蓼科農学校に行き、来会者550余名に対し、午前11時より午後3時半まで政治と農村と題して講演した。終わって、上田市に行き、別所温泉に行き宿泊。22日は上田市公会堂に行き、来会者600余名に対し、午前10時半から午後3時半まで、同題にて講演を行った。終わって、南佐久郡臼田町に行き宿泊。23日は臼田町公会堂に行き、来会者250余名に対し、午前9時半より12時40分まで講演を行った。終わって帰京の途につき、午後8時上野に着した。24日温は午後6時上野発にて、今度は福島県での講演のために出張の途につき、12時40分安達郡本宮町に着し、宿泊。翌25日、本宮町の繭共同市場の事務所にて、来会者200名に対し、午前10時より午後4時まで郡農会主催の講習会を行い、温が2時間分を担当した。26日も講習会で、温が午前9時より午後3時まで講演した。終わって、3時40分発にて帰京の途につき、10時40分上野に着した。なお、この日、衆議院の閉院式があった。

3月27日、帝農にて、貴族院議員10余名と農政懇話会をし、また、午後5時より矢作副会長が農政研究会の幹事を招待し（第51議会の慰労）、加藤、東、三輪氏ら15名が出席した。

3月27日夜、温は午後8時半上野発にて、富山県での講演のため出張の途についた。翌28日西砺波郡石動町につき、午後2時より西砺波郡農政会発会式に出席し、温が1時間半ほど講演を行った。終わって懇親会に出席し、8時発にて帰京の途につき、翌29日朝9時上野に着した。30日は駒場の農科大学を訪問し、町田学部長、原先生に面会。31日は帝農に出勤し、大正15年度事業、生産費調査の計画や、増田幹事以下の増俸を決めている。

4、5月、温は帝農の業務を種々行い、また、地方によく出張し、講演を行った。2日は農村生計調査様式の考案、3日は埼玉県北埼玉郡種足村におけ

る小作組合計画の講演会のために出張した。午前8時55分上野発にて出発し、午後1時より種足村小学校にて来会者600余名に対し、温らが講演し、終わって、5時30分発にて帰京した。4日は娘の綾子の進学のために三輪田真佐子（三輪田高等女学校校長）氏を訪問、5、6日は震火災、旱害の見舞金の決算等をなし、7～9日は米生産費調査書の手入れ等を行った。10日は穂積陳重枢密院議長の告別式に参列し、あと、沢村真博士祝賀会に出席し、温が実科総代として祝辞を読んでいる。また、原稿（「第51議会と農村問題」）の執筆を行った。11日も原稿執筆。12日は帝農にて幹事会を開き、道府県農会職員協議会について協議、あと、在京評議員会を開催した。13日も同協議会への提出問題の研究及び立案。14日は文部省を訪問し、松浦次官に千葉高等園芸学校と東京帝大農学部実科問題との関係を質している。15日から21日まで道府県農会職員協議会を開催し、委員会を開き、決議事項を協議した。なお、協議会中の20日には、福田幹事と農林省を訪れ、高田参与官に郡農会存続問題を陳情し、さらに早速農林大臣にも同様の陳情を行っている。この職員協議会において、「農村振興費二関スル決議」（農村振興費の増額等）「現行農会法改正二関スル決議」（経費賦課法を地租割から地価割にすること等）「産業各種機關ノ連絡統一二関スル決議」「農産物販売斡旋二関スル決議」「郡役所廃止ニ伴フ郡農会ノ善後策二関スル決議」（郡役所の農業関係技術員を郡農会技術員とし、又地方費より補助すること等）「市町村農会発展二関スル決議」（町村農会に専門技術員を設置し、国庫補助を要望する等）を決議した²⁹⁾ 22日は帝国農政協会理事会を開催。23日帝農に出勤し、雑事。なお、この日から石橋幸雄を帝農職員に採用し、米生産費調査の手伝いを始めている。

4月24日、温は夜8時上野発にて山形県における農会事業研究会での講演のために出張した。翌25日午前4時半米沢に着し、休憩のあと、南置賜郡郡役所楼上にて同郡農会主催の農会事業研究会に出席し、午前10時より午後3

29) 『帝国農会史稿 資料編』1022～1026頁。

時半まで講演を行った。しかし来会者はわずか25、26名に過ぎず、途中で講演を休止している。翌26日も午前中講演を行った。午後は協議の予定であったが、郡農会当局に何の案もなく、温は「無為無策ノ地方ナリ」と嘆じている。27日は午前8時宿を出て、東置賜郡小松町に行き、小松町公会堂にて、東置賜郡農会主催の農会事業研究会に出席し、来会者110余名に対し、10時半より午後4時まで講演を行った。28日も研究会に出席し、午前10時より午後4時まで講演を行った。29日は西置賜郡永井町に行き、同郡教育館にて、農会経営講習会に出席し、来会者50余名に対し、午前11時より午後4時まで講演を行った。30日も講習会に出席し、午前10時半より午後3時まで講演を行い、終わって、赤湯温泉に行き、入浴後、9時40分赤湯発にて帰京の途についた。5月1日温は午前8時半上野に着し、一旦帰宅し、帝農に出勤し、業務をみ、そして、また、この日午後5時20分発にて山梨県農会主催の町村農会経営研究会に講演のために甲府に行き、11時50分甲府に着した。翌2日温は山梨県会議事堂に行き、山梨県農会主催の農会経営研究会に出席し、郡町村農会長、同技術者等約200名に対し、午前10時より午後4時まで講演を行った。3日も午前9時半より12時半まで講演を行い、午後は研究会に出席した。4日午前2時甲府発にて帰京につき、6時40分飯田町に着し、帰宅した。5日出勤し、幹事会を開き、事務上の打ち合わせをなし、そして、この夜8時半東京発にて愛媛への帰郷の途に着いた。

5月6日、温は夜の8時高浜港に着き、帰宅した。帰郷後の温は多忙であった。7日は終日在宅し、明日以降の報告演説の準備等をした。またこの日「大衆時代」(無産者新聞)の高市盛之助が温を訪問し、温が新聞を購読している。8日以降、衆議院議員として毎日講演の連続であった。8日は午前郡農会長会に出席し、後、午後1時より郡中町に行き、同劇場にて、来会者約300名に対し、第51議会の報告演説を行い、さらに、石井村に帰り、午後7時より来会者140余名に対しても報告演説した。9日は午前は知事官邸、伊予日々新聞社等を訪問し、後、郡農会長会に出席し、郡農会存廃に関する意見を述べ、午後

2時からは松山公会堂に行き、第51議会報告演説会に出席した。250余名が出席し、野口が開演の辞、仙波、渡邊の演説の後、温が演説した。盛況であった。さらに夜6時からは大街道のカフェにて温の歓迎会があり、60余名が出席し、これまた非常の盛会であった。10日は東宇和郡での講演のために出張した。朝8時半自動車にて出発し、午後1時卯ノ町に着き、2時より小学校講堂にて来会者400余名に対し、5時半まで講演を行った。11日は野村町に行き、午後2時より公会堂にて来会者320余名に対し、4時40分まで講演した。終わって、卯ノ町に帰り、宿泊。翌12日午前5時卯ノ町発にて帰宅した。

5月13日、温は帝農幹事として、九州地方（熊本、佐賀、福岡）に農業経営の視察、各県農会主催の講演会等のために出張した。この日午後1時半自宅を出たが、妻の岩子が淋しそうであった。「日記」に「岩子ノ淋シサフニ見送りタル、気ノ毒ニ堪ヘス。東洋ニハ志士ノ国事ニ奔走スルヲ家人ノタメニ産ヲ治メスト云フカ、コレハ幸福ニアラス」と書きとめている。6時高浜発利根川丸に乗り、門司に向かい、翌14日午前5時半門司に着し、熊本に向かい、午後1時半熊本に着し、宿泊。15日午前下益城郡（しもましきぐん）豊福村に行き、内田豊治氏らの共同経営を視察し、午後1時鏡町に行き、熊本県農会主催の町村農会経営研究会に出席し、2時間ほど講演した。終わって熊本に帰り宿泊。16日午前玉名郡横島村に行き、木村元之氏の農業経営を視察し、午後同郡横島村小学校にて開催の町村農会研究会に出席し、来会者100余名に対し、2時間半ほど講演した。17日は鹿本郡米田村の大津山氏の農業経営を視察し、山鹿に宿泊。18日は山鹿を出て、佐賀県に向かい、三養基郡基山村に行き、午前は同役場にて、小作争議の経過、農会の状況等を聞き取り、午後は農会総代、技術者等150名ほどに対し、4時まで講話を行い、終わって、博多に向かい、宿泊。19日は午前7時博多を出て、糸島郡前原村に行き、末崎豊太郎氏の共同経営を視察し、午後は糸島郡役所にて振農会総会に出席し、50分ほど講演し、ついで糟谷郡青柳村の実行組合事業を視察し、終わって、古賀駅を8時に出て、下関11時発にて、東上の途についた。20日午後6時京都に

着し、ついで奈良に行き、菊水館に宿した。21日朝生駒郡役所を訪問し、折柄郡内実行組合幹部会を開催しており、温は郡長に強いられ、1時間半ほど講演を行った。その後、矢田村を視察し、奈良、京都をへて、帰京の途につき、翌22日午前10時東京に着した。以降も温は種々業務を行った。25日は丸毛信勝とともに文部省を訪問し、松浦次官に帝大農学部実科問題を談じ、26日は農林省を訪問し、愛媛県穀物検査所長の件等を依頼し、夜は青山いろはにて講農会の懇親会に出席し、28日は二八会、29日は米生産費の原稿手入れ、30日には内藤鳴雪翁の追悼会（高輪東禅寺）に出席等々。

6月も温は帝農の業務を種々行った。2日新正倶楽部の例会に出席、後、帝農幹事会を開催し、農産物販売幹旋所主任者協議会への提出問題の協議を行い、4日には新農林大臣町田忠治氏邸を訪問し、祝辞を述べている。7日の夜は帝農にて小作法調査委員会を開き、桑田、安藤、那須委員が出席し、小平権一の特別出席を求めて、前小作法案の説明を聞き、8、9日は農業経営調査帳簿改正の研究、10、11日は田畑賃貸価格調査の研究等を行った。12日は鉄道省を訪問し、八田建設局長に面会し、南伊予村駐車場の陳情し、13日は終日原稿（関税定率法改正に関する意見）を執筆、15日は府中町の演習林地（実科移転予定地）の視察した。16～22日は養蚕生産費調査様式、農業経営調査帳簿改正、麦生産費調査様式の研究等を行った。23日からは帝農主催の第1回道府県農会販売幹旋主任者協議会を開催し（～26日）、農林省副業課の諮問案（「副製品の販売幹旋に関する適当なる方策如何」）や帝農提出の協議案等を協議した³⁰⁾ 27日は藤巻雪生、丸毛信勝とともに三里塚御料牧場を見学し、28日は農業教育委員会を開催し、横井、佐藤、那須、加賀山、小出ら出席の下、補習学校について協議し、29日は耕地拡張余地問題の研究、30日は道府県農業経営主任者会議の準備等をなした。

7月、8月、温は帝農の業務を種々行い、また、地方に出張し、郷里にも帰

30) 『帝国農会報』第16巻第10号、大正15年8月。

り、よく講演を行った。7月1日は農業経営主任者会議の準備、5日は農林省に行き、神戸大阪販売斡旋所支部の件にて局長に談判し、夜は小作法調査委員会に出席した。6日からは帝国農会は道府県農会農業経営主任者会議を開催した(～9日)。農業経営調査、米麦繭桑生産費調査に関する打ち合わせであった³¹⁾この協議会は大変愉快的な会議で、温は10日の「日記」に「今回ノ経営調査主任会ハ非常ニ愉快ナル会議ナリシ。右ハ教育程度高キニヨルモノ主ナル原因トナルヘシ」と記している。また、帝農は12日から24日まで道府県農会技術者講習会を駒場の東京帝大農学部にて開催し、温も13日に課外講演として午後1時半より3時20分まで米生産について講演をした³²⁾

7月16日、温は午後8時半発にて帝農主催の地方講習会のために広島県に出張の途についた。翌17日午後2時福山町に着き、宿泊した。18日午前9時より福山町高等女学校講堂にて帝農主催の講習会を開催した(講師は岡田温、勝賀瀬質参事、浅沼滋賀県農会技師)。来会者は約200名で、温は18日の午前と19日の午前に講義した。20日は各級農会協議会を開催し、温が問題の趣旨説明を行っている。21日、温は朝4時10分発にて福山を發し、尾道に出て、5時発の相生丸に乗船し、8時40分高浜に着し、帰宅した。

松山に帰郷した後、温は多忙であった。7月22日、温は午前9時石井発汽車にて出市し、愛媛県農会に行き、南予における県農会主催の講演会の打ち合わせを行った。23日は終日在宅し、種々の来客に接した。24日は知事官邸を訪問し、阪間内務部長に面会し、南土居低利資金及び大原正信の就職を依頼、陳情等をなした。25日は終日在宅。26日から、温は多田隆県農会技師と8時半発の第14宇和島丸にて南予巡講(御莊村、宇和島市、八幡浜町、大洲町、小田町)の途についた。翌27日午前6時南宇和郡東外海村の深浦港に上陸し、9時より御莊村実業学校にて講演会を開催した。聴衆は300余名で南宇和郡としては「非常ノ盛況」であった。その夜は城辺村の松屋旅館に宿。28日

31) 『帝国農会報』第16巻第10号、大正15年8月。

32) 『帝国農会報』第16巻第10号、大正15年8月。

は宇和島に行き、午後1時より宇和島市役所議事堂にて講演会を開催した。しかし、来会者は90余名で、農会は不振であった。その理由について、温は「日記」に「近年北宇和ノ農会振ハス。其原因ハ太宰、清家ノ勢力争ヒト各町村長ノ農会無用論ヲ抱クモノ多キニヨル。…太宰氏ハ病氣、副会長ハ差支トカニテ一切顔ヲ出サス。要スルニ現代ノ農業界ヲ解セサルモノ乎」と観察している。なお、太宰孫九は政友本党の衆議院議員、清家吉次郎は政友会の県会議員で、ともに南予の重鎮で、対立していた。29日は県農会主催の農村経営研究会を宇和島市公会堂にて開催した。全郡より80余名が出席し、農村振興の具体的希望と町村農会経営の方針の2問題について討論している。午後3時に研究会が終わり、温は門田晋（県農会長）と太宰を見舞い、7時発の群山丸にて八幡浜町に行き、恵比寿堂に宿泊した。30日午前、八幡浜の寿座に行き、来会者220余名に対し、午前9時半より午後1時まで講演を行った。終わって、大洲に向かい、小西屋に投宿した。31日午前、大洲小学校に行き、農学校生徒ら80余名に対し、午前8時半より12時半まで4時間にわたり講演を行った。終わって小田町に行き、宿泊した。8月1日は午前、小田町村小学校に行き、来会者240余名に対し、午前9時半より12時まで講演を行い、終わって、午後2時小田を出て、6時帰宅した。3日は午後1時より道後大和屋にて門田、多田らと会食し、4日は終日在宅。5日、温は午前6時松山発の中予会社の自動車にて久万町に行き、同役場にて来会の中堅人物120余名に対し、11時より2時間40分にわたり、農村問題の争いと題して講演を行い、「盛況」であった。これにて、県農会委嘱の南予講演を終了した。翌6日午前10時発にて帰宅の途につき、正午帰宅した。10日、温は道後ホテルにて農友会幹部会を開き、宮内、渡邊、大原、仙波の4名と会合し、選挙の際における伊予、温泉両郡における農友会の負債問題及び次の選挙について協議している。温は次の選挙には出馬しない考えであった。この日の「日記」に「未タ心底ヲ話サズ。但シ大原君ニハ略打明ケタリ」と記している。11日は県庁、県農会等を訪問し、12日も温泉郡農会、久松伯爵邸、県庁等を訪問した。

8月15日、温は再び東京で帝農幹事として活動するために、この日、高浜午後7時30分発紫丸にて、大原、石丸、多田、加藤らの支持者に見送られて上京の途についた。翌16日午前9時大阪に着き、途中、奈良県郡山に行き、県農会の菊田技師らと生駒郡矢田村の調査を協議している。翌17日、菊田技師とともに耳成村に行き、東竹田の共同経営を視察した。終わって、午後5時出発、大阪7時半発にて、上京した。18日午前8時東京に着し、以後、種々業務、原稿の執筆（帝国農会報、米生産費について等）を行った。

8月24日、温はまたまた出張の途についた。この日午後8時半上野発にて新潟県に出張し、翌25日9時頃柏崎につき、上条村に行き、久米小学校にて農事講演会に出席し、講演を行い、柏崎に宿した。26日は午前6時50分発にて長岡市に行き、長岡市公会堂にて、新潟県農会主催の町村農会技術員講習会に出席し、来会者120余名に対し、9時半より12時20分まで農業経営について講演を行った。午後は栃尾地方の水害の状況を視察し、長岡に宿した。27日は午前中上北谷村に行き、水害被害状況、農家の視察を行い、長岡に帰り、午後1時より4時まで講演を行った。28日は福島村、本成寺村、三条町の水害被害状況を視察し、新潟に宿した。29日は新潟県庁を訪問し、後、北蒲原郡木崎村を訪問、視察した。村長、書記から木崎争議の状況の説明を受け、農民組合本部を訪問した。この日の「日記」に、「争闘本部ヲ訪ヒシモ面付ノ悪シキ小作者ラシキモノニ、三人アリシモ、幹部不在ニテ話相手ナク、更ニ十五、六丁ノ目下問題トナレル農民学校ヲ視ル。八間ニ十二間ノ粗末ノ建物、教室六ヶ」と記している。その夜、新潟発にて帰京の途に着き、翌30日午前7時半上野に着き、そのまま、帝農に出勤した。

9月も温は帝農の業務を種々行い、また、講演に出張した。1日は大正16年度の農業経営部の予算等を起案、2日は奈良県矢田村の基本調査事項の起草、3日は帝農幹事会、4日は京都府の地主代表（桜井利三郎、大野植三郎ら4名）が帝農に訪れ、京都府の小作争議の状況の陳情及び小作法に対する陳情があり、矢作副会長、幹事らと対応した。

9月4日、温は午後10時30分上野発にて、岩手県に出張した。翌5日午前9時半一ノ関に下車し、平泉中尊寺に参詣し、後、江刺郡岩谷堂町に行き、午後2時より同公会堂にて開催の婦人農事大会に出席し、来会者800余名に対し、農村の文化生活と題して2時間ほど講演した。6日は前原町に行き、同小学校にて来会者120余名に対し、10時より2時間ほど講演し、ついで、岩谷堂町に帰り、同公会堂にて、午後2時より4時まで農村振興の意義について講演した。聴衆は、1,500~1,600名も集まり、公会堂に立錐の余地なく、場外に溢れ、温は「大ニ緊張シ、熱弁ヲ振」っている。終わって、夜7時半発にて、帰京の途についた。

9月7日午前9時上野に着し、一旦帰宅後、帝農に出勤した。この日、帝農幹事会を開催し、評議員会への提出議題、及び帝国農会報の改正問題を協議した。会報の改正にかんし、矢作副会長と福田幹事が対立した(内容不明)。この日の「日記」に「会報ヲ一月ヨリ改正ノ件ニ付、副会長ト福田幹事ト衝突シ、福田君退席ス。両者ヲナダメテ再会ス」とある。そのあと、大阪を中心とする11県の地主の代表が帝農を訪問し、矢作副会長、幹事、小作法調査委員会の志村、安藤、那須らに面会し、陳情した。夜、小作法調査委員会を開いたが、副会長と桑田熊蔵が「衝突」している(内容不明)。8日は帝農評議員会の準備等を行い、9日、10日の両日、帝国農会の全国評議員会を開催した。山田敏、山田恵一、山口左一、三輪市太郎、長田桃蔵、桑田熊蔵、八田宗吉、山内範造、秋本喜七、藤原元太郎らが出席し、来る第17回帝農総会提出事項を協議した。なお、9日には大日本地主会の幹部10数名が来会し、評議員に対し、小作法制定について意見及び陳情を行った。また、会長問題は空席のままであった。10日の「日記」に「会長問題ハ内容ニ触レス。只、各考へ置クコト、ス」とある。11日以降も温は種々業務に従事した。12日は伊沢多喜男東京市長を飯岡清雄の一身上の問題で訪問、14~16日小作法に対する原稿を執筆、また、16日に故早速整爾大蔵大臣の葬儀に参列、17日は小作法調査委員会開催、桑田、三瀧信三、佐藤、大島らが出席し、幹事案の研究、18日は麦価は

生産の消長に関する統計の作成，19日は農業経営と農政の原稿，また，夕方，農村文化協会の農村映画の試写会，20日は教育委員会開催，21日は神奈川県に行き，大船農事試験場にて，技術者等70余名に対し，午後1時より3時間農業経営について講演，22日は第2回の小作法調査委員会を開催，志村，横井，桑田，佐藤，安藤，那須，大島，岡本らが出席し，2カ条を協議し，23日はまた神奈川県に行き，大磯町にて，神奈川県西部4郡の郡町村農会役職員協議会に出席し，午後1時より4時まで講演した。そして，その夜，温は松山市で開催される青年議会に出席のために愛媛への帰郷の途についた。24日尾道から船で高浜に行き，午後9時松山に着した。

9月25日から3日間，松山市新栄座で愛媛新報，海南新聞主催の第1回愛媛県青年議会が開催された。この青年議会は，普通選挙が施行され，青年の政治的覚醒を促すための模擬議会であった。総理大臣に明治大学教授の松本重敏（憲法学者），外務大臣に成田栄信，内務大臣に村上紋四郎，農林大臣に岡田温，無任所大臣に中村啓次郎（政友本党）らが擬せられた。しかし，前日の打ち合わせから紛糾し，25日の第1日目も紛糾していたが，ようやく午後5時に開会した。議長，副議長を選び，松本重敏首相の施政方針演説がなされた。26日の2日目には成田外務大臣，中村啓次郎の外交演説があり，南予を野党，中予を与党，東予を中立とし，質問に入っている。27日の3日目には岡田温農林大臣に対して，議員から小作問題に対して如何なる対策をとるか，との質問，また，政府提出の米麦混食法案に対し，麦の増殖ができるのかなどの質問，さらに政府提出の篤農家優遇法案に対し，農業者のみを優遇するのは絶対反対だ，などの意見が出て，温が応答している³³⁾。27日の「日記」に「午前中ハ自分ニ対スル質問及提案ノ説明，応答ニテ終リタリ。但シ問題カ篤農家優遇案ヤ米麦混食案ニテハ農政意見ヲ十分ニ披瀝スルヲ得ス」と反省している。

9月28日，温は再び帝農幹事として，東京で活動のために上京の途につい

33)「海南新聞」大正15年9月24～28日付。

た。この日、午前11時石井発にて出発し、松山駅では仙波、大原、野口、山岡らに見送られ、12時半高浜を出発した。途中岡山での講演のため宿泊。29日、温は岡山県会議事堂に行き、岡山県農会主催の第2回町村農会長会に出席し、来会者300余名に対し、午後1時より1時間40分ほど「農村振興ノ意義」について講演を行った。終わって、午後6時50分発の急行にて上京し、翌30日正午東京に着した。

10、11月も温は帝農の業務を種々行い、また、よく地方に出張し、講演、視察等を行った。1日は大経営の集計の考案等、2、3日は原稿の執筆（「米価とその生産費」）、6日、農業経営帳簿の検討、また、午後4時半より小作法調査委員会を開催し、横井、桑田、岡本、那須、山口左一、大島国三郎、三瀧信三ら出席の下、協議し、大要を終了。

10月7日、温は午後7時半発にて兵庫県に講演のために出張した。翌8日午前7時京都に着し、山陰線に乗りかえ、兵庫県養父郡八鹿町に向かい、12時30分八鹿町に着した。養父郡八鹿町公会堂に行き、2時より開催の講演会に野原種次郎代議士（兵庫県選出、新正倶楽部）の後、温が1時間半ほど講演した。9日、温は6時40分八鹿町を出発し、有馬郡三田町に行き、午後2時より旧三田座にて、来会者300余名に対し、山脇延吉、多木久米次郎（兵庫県選出、政友本党）、野原種次郎、そして温が講演した。10日は加古川郡加古川町に行き、同公会堂にて、来会者240余名に対し、前日と同じメンバーが講演した。終わって、神戸に行き、7時半発急行にて帰京の途につき、翌11日午前9時東京に着し、そのまま出勤した。

10月15日、温はまたまた出張した。この日午前9時東京発特急にて大分県に出張の途につき、翌16日午前8時半下関に着き、別府に向かい、午後1時別府に着した。この日は浜脇にて開催中の畜産共進会を視察し、松屋旅館に宿泊。17日、南大分の小学校に行き、大分県農事実行組合会に出席した。小組合長ら2,000余名が参集し、庭前に筵をしき、幕を張り開会し、温は関税及び米価問題について演説した。終わって、農具及び副業展覧会を視察した。18

日も同小学校に行き、大分県各級農会長会議に出席し、関税その他農政時事問題について1時間半ほど講演した。終わって、入浴、小憩後、午後5時発にて帰京の途につき、翌19日午後8時東京に着した。

10月19日から3日間、帝農にて評議員会が開催された。横井、志村らの評議員が出席し、来る第17回帝国農会通常総会にて提出する、小作法案要項、各建議案を協議した。また、帝国農会長問題について、帝農幹事らを退け、評議員が密議をした。20日の「日記」に「四時頃ヨリ帝国農会ノモノヲ遠サケ、会長問題ニ付密議アリ。多分副会長ヲ昇格シ、安藤君ヲ副会長トナスコトニ決セシ模様」とある。21日に各建議案を議了したが、小作法要項は結局見送りとなった。21日の「日記」に「小作法要項ハ今回ノ総会ニ提出セサルコトニ協議ヲナス。蓋シ議事マトマラサル処アルカ故ナリ。呼」とある。前年の第16回総会では「小作法制定ニ関スル建議」が出されていたのに、後退であった。

10月22日から25日までの4日間、第17回帝国農会通常総会が開会された。22日10時開会し、矢作副会長が議長となり、福田幹事が諸般の報告を行い、会長、副会長、評議員の補欠選挙を行い、矢作栄蔵が会長に、安藤広太郎が副会長に選出され、評議員（故斎藤宇一郎及び安藤広太郎の補欠）に岡本英太郎、加賀山辰四郎が選出された。午後3時から農科大学にて、在學生、卒業生の会合があり出席した。また、夜6時から中央帝にて町田農林大臣の小大会があり出席した。23日は総会の2日目で、安藤副会長議長席につき、議事を進め、予算案、諮問案、各建議案の説明、そして、委員会に付託された。農林大臣の諮問案は「農村事情ノ推移ニ伴ヒ農会ノ活動上注意スベキ事項如何」であり、建議案は「農村教育改善ニ関スル建議案」「肥料政策確立ニ関スル建議案」「郡市長村農会技術員国庫補助増額ニ関スル建議案」「自作農業者ノ取得スル田畑ニ対シ登録税及不動産取得税免除ニ関スル建議案」「農村金融改善ニ関スル建議案」「自作農維持創設ニ関スル建議案」等が出された。小作法制定に関する建議案がなくなっていたため、この日、緊急動議として町田嘉之助議員（埼玉県）から小作法調査特別委員会設置の件が提案され、支持意見も

あり、設置することを決めている³⁴⁾ 24日は総会の3日目で、委員会を開き、審議した。温は農林大臣諮問案委員会に出席し、答申案を作成している。25日は総会の最終日で、委員会の報告がなされ、議決した。しかし、小作法に関する議論が出て、午後4時ようやく終わり、午後6時からは新任の小作法調査委員会(27名)を開き、政府の委員会案につき逐条審議をなし、小委員を選びさらに研究することになった。

10月26日は、帝国農政協会総会を開催した。小作法問題では地主側の反撃があり、紛糾した。この日の「日記」に「小作法問題ニツキ、意見多クシテ帝国農会ノ立場ノ困難ナル傾向ニ向ヒシ故、屢発言シ、委員会ニテハ遂ニ福田君ハ若尾、佐藤両氏ノ過言ニ憤慨セリ。最後ハ円満ニマトマリ、中央亭ニテ晚餐ヲ饗ス」とある。27日は農政協会の実行委員会を開き打ち合わせを行った。

10月28日、温はまたまた出張し、今度は北海道、青森の農業経営視察の途についた。この日午後1時上野を出て、北海道に向かった。29日午前6時青森に着し、7時30分発の鳳翔丸にて函館に向かい、正午函館に着き、札幌に向かい、午後9時50分札幌に着した。30日午前北海道庁を訪問し、移民、農産物について調査し、午後は白石村の出納陽一の農業経営を視察した。31日は午前は琴似村のフエンガー氏の5町の農業経営を、午後は真駒町のラーゼン氏の15町の農業経営を視察した。後、定山溪に行き、宿泊。11月1日正午札幌に帰り、道庁拓殖課を訪問し、拓殖に関する説明受け、午後9時40分発にて清水に向かい、翌2日午前5時清水に着した。明治製糖、十勝開墾株式会社、ドイツ人ゴッホ氏の農業経営を視察し、帯広に行き、宿泊。3日は北海製糖会社、幕別村の矢野光五郎氏の農業経営を視察し、帯広公会堂にて講演を行った。4日は根室に行き、根室牧場を視察し、宿泊。5日は根室の標津原野を視察。6日は西別の太田則義氏を訪問し、池田町に行き宿泊。7日池田町を出発し、網走を視察し、常呂郡野付牛町(のっけうし、現北見市)に帰り、宿

34) 『帝国農会報』第16巻第15号、大正15年12月。

泊。8日、農事試験場等を視察し、午後2時より町役場講堂にて講演を行った。9日午前8時野付牛町を出発し、札幌に向かい、午後9時40分札幌に着し、宿泊。10日は石狩町の視察し、午後9時40分札幌発にて青森に向かった。11日午後1時青森に着き、宿泊。12日は南津軽郡光田寺村の中村国太郎氏の農業経営を視察し、西津軽郡木造町へ行き、宿泊。13日は青森市赤十字社に行き、東津軽郡農会主催の講演会で講演した。14日は再び木造町に行き、佐々木五助氏の農業経営（小作大農、帝国農会の調査農家）を視察した。15日青森に戻り、県庁に挨拶し、午後1時発にて帰京の途についた。翌16日午前8時上野に着いた。

11月17日以降、温は帝農に出勤し、種々業務を行った。17日は午後、農林省の補助を得て第1回農産物販売組織調査委員会を開催し、小委員会を設けた。19日は午後農産物販売組織調査小委員会を開き、飯岡清雄（東京市商工課）、車恒吉（東京深川市場）、飯田律爾（鉄道省）らと調査項目の協議。21日は駒場に行き、原先生に面会し、武智君のことを相談し、21日は帝国農会報（第16巻第15号）の巻頭辞（「農会の使命」）の執筆、22日午後農産物販売組織調査小委員会の会議、23日は北海道視察の執筆、25日は衆議院議長官舎にて元ブラジル大使ブラジル談を聞く。26日米穀委員を中央亭に招待、27日は小作法調査小委員会を開き、横井、那須、桑田、安藤、木津慶次郎、赤石武一郎、町田嘉之助、松岡勝太郎、山口左一、三輪市太郎、山田敏等が出席し、政府の小作委員会案の各要項に対し、修正意見を協議した。28日も午前10時より午後4時まで同小委員会を開き、修正意見を決定した。30日は農業経営審査委員会の小委員会を開き、横井、安藤、佐藤木村、清水、農林省の渡邊侯治らが出席し、大経営の集計について協議。

12月も温は帝農の業務を種々行った。会議の連続であった。1日、2日は帝農にて農業経営審査会を開催し、3日は第2回農産物販売組織調査委員会を開催、4日は講農会総会に出席し、関税問題について講演、5日は終日在宅し、小作法要項の批判文を執筆、6日は午後米穀取引所の有松向龍、上田弥兵

衛、富久彦一郎氏らを招き、取引所に関する質問をし、夜は6時より京橋芝蘭亭にて新聞記者の招待会に出席。7～9日は奈良県矢田村の調査票の作成等。なお9日、大正天皇の様態が悪化している記事がある。「陛下御睡眠長キニ渡ラセラルトノ号外出ツ」。10日は午後2時より9時まで農産物販売組織調査委員会を開催、11日は農業経営審査会の小委員会、13～14日は郡町村農会技術者講習会の準備等。15日からは帝農主催の郡町村農会技術者講習会が西ケ原、高等蚕糸学校内で開催された（～20日）。17日、温は大正天皇の平癒、祈願のため葉山御用邸に奉伺にわざわざ訪問している。18日は幹事会を開催し、来年1月開催の道府県農会長会議の提出問題を協議、19日は終日在宅し、原稿の執筆、20日、西ガ原の蚕糸学校に行き、講習終了式に参列。21日は原稿執筆等。22日は午後農産物販売組織調査委員会、23日は午後幹事会を開き、小作法案調査委員会の決議事項の検討等。

12月24日、若槻憲政会内閣下の第52議会が召集された。なお、憲政会と政友本党の提携はすでに崩壊しており（政友本党の総裁床次竹二郎は、政権を譲り受けようと希望していたがかなえられなかったため³⁵⁾）、逆に、政友会と政友本党が、後藤新平の斡旋で成立していた（12月21日）。若槻憲政会内閣にとっては少数与党での議会であった。なお、この日、大正天皇が危篤となった。「聖上御危篤」。そして、翌25日大正天皇が死去した（48歳）。この日の「日記」に「午前一時二十五分天皇御崩御アラセラル。葉山御用邸ニテ。大正十五年十二月二十五日以後ヲ昭和元年ト改ム。出勤。廢朝仰出サレシモ、廢務ハナサス。平常ノ如ク事務ヲ取ル。午後二時会長来会、一同ヲ葉山ニ向ッテ最敬礼ヲナス」とある。26日、第52議会の開院式が貴族院にて行われた。若槻首相が勅語を奉読し、後、議事を開き、勅語奉答文を決し、哀悼上奏文を議した。27日、温は衆議院に登院し、この日、全院委員長選挙、常任委員長選挙が行われた。野党の政友会と政友本党は提携し、憲政会は議会少数であったた

35) 升味『前掲書』116頁。

め、全院委員長に植場平（政友本党）、予算委員長に川原茂輔（政友本党）、決算委員長に磯部尚（政友会）、請願委員長に土井権大（政友会）、懲罰委員長に岩崎幸次郎（政友会）が就任した³⁶⁾ 28日、温は衆議院に登院し、この日、御大喪費の決議がなされている。その後、議会は明年1月15日まで休会となった。29日、温は賀状の配達を差し止め、午後9時15分発にて愛媛に帰郷の途につき、翌30日午後10時帰宅した。帰ってみると、岩と慎吾はチブスに冒され、ともに枕を並べて病臥していた。31日、出市し、看護婦会に行き、看護婦を依頼し、越年の準備をした。この日の「日記」に、「生レテ初メテ暗キ大晦日ナリシ」と記している。

第2節 講農会、東京帝大農学部実科独立運動関係

温は講農会会長を続けている。2月12日には講農会幹事会を開いている。12月4日に総会を開催している。

東京帝大農学部実科独立運動関係では、本年大いに前進、決定した。2月末に貴族院議員林博太郎に働きかけ、貴族院で実科問題を取り上げてもらうよう交渉し、3月4日に、温は原鉄五郎、丸毛信勝と質問の打ち合わせ、7日にも丸毛と打ち合わせを行った。そして、19日に林博太郎が貴族院予算委員第3分科会で、岡田良平文相に次のような質問をした。震災後総合大学の復興計画ができて、駒場の農学部が本郷に移転することになった、その際、実科をどうするのか、岡田文相は実科に同情があると承っているが、この実科をいかなる場所にいつ独立させるのか、質問をした。それに対し、岡田文相は実科を独立させて、その場所は本郷ではなく、駒場に近い場所を1両年中に選定する³⁷⁾と答えた。しかし、4月11日、前年発生した松戸への移転問題がまたまた発生したようで、14日温は文部省を訪問し、松浦文部次官に千葉高等園芸学校と東京帝大農学部実科問題との関係をただしている。松浦次官は実科問題とは

36) 『大日本帝国議会誌』第17巻、322～326頁。

37) 『第51回貴族院委員会議事速記録』大正15年3月19日。

関係ない、一度失敗した問題であり、再燃するはずがないと談じ、温は安心して、その旨を原、丸毛に伝えている。そして、この頃より、実科独立の候補地の物色が始まった。そして、6月15日、温は候補地のひとつ、府中町の演習林地を中村道三郎、丸毛信勝、中村徳太郎（農学部林学科助手）とともに視察した。温は「学校敷地トシテ頗ル可ナリ」と「日記」に記している。20日に帝農にて駒場交友会通常総会を開催し、役員の外、西大路会頭、学生ら20～30名出席した。そしてその夜、丸毛が温宅を訪問、府中の土地を購入する相談をしている。7月～8月にかけて、交友会幹部と文部省、大学当局とが繰り返し交渉し、8月24日、岡田文相が丸毛信勝を招き、会見した。そこで、岡田文相は実科独立は文部省議として内定、敷地は大体府中、独立予算の一部を大学復旧費より支出するとことを伝えた³⁸⁾その報告を温は24日に丸毛より受けている。温はこの日の「日記」に「実科独立ノ基礎確立ス」と記している。9月8日母校土地買入れのため、温らは国光生命保険より借金することを決めている。「夜、帝農ニテ藤巻、渡邊、丸毛、中村、染野君会、母校土地買入ノタメ国光生命保険ヨリ借金ノ件ニ付相談シ、決行スルコトス」。

以上のように、本年念願の実科独立の方向が定まった。

第3節 家族のことなど

家族関係では、長女の末光清香（明治28年3月21日生まれ、30歳）は末光家で、子供3人を育てている。

次女の禎子（明治35年2月2日生まれ、23歳）は、東京帝国大学心理学科の聴講生を続け、心理学を学び、また、戯曲を書いている。

4女の綾子（明治41年10月1日生まれ、17歳）は、3月、愛媛県立松山高等女学校を卒業し、3月23日、東京女子大に入学するために上京した。30日女子大の入学試験を受けたが、及第しなかった。そこで、温は種々学校を探

38) 駒場交友会『母校独立記念号』346頁。

し、4月9日三輪田真佐子（三輪田高等女学校校長）氏から小石川の帝国女子専門学校を紹介され、11日入学手続きを行い、12日綾子は同校に入学した。

長男の慎吾（大正元年8月23日生まれ、13歳）は、松山中学校に通っている。温はこの年8月15日、慎吾を農科大学に入学の方針をきめ、語学と数学、読書作文をよく勉強するよう諭している。

妻の岩（明治8年8月22日生まれ、50歳）は、7月～8月と12月に体調を崩し病臥している。

兄弟関係では、弟の次男・宏太郎（明治7年2月17日生まれ、51歳）のことであるが、家出以来信不通、所在不明であったが、3月1日、川添覚助氏（長崎県壱岐国瀬戸港）の手紙により判明した。2日温は川添氏に返信し、その中に宏太郎宛の手紙を入れた。この日の「日記」に「小説ノ如キ出来事ナリ」と記している。29日、宏太郎より手紙がきた。実に13年ぶりの手紙であった。そして、8月8日宏太郎帰宅した。

他方不幸があった。6月4日、温の妹、長女橘シカ（明治7年7月19日生まれ、51歳、橘栄次郎の妻）が脳溢血にて死去した。温は禎子を帰国させた。13日に禎子が帰京し、報告を受けているが、夫の栄次郎の不甲斐なさを恨んでいる。「禎子帰京ス。シカ子ノ死悲惨ノ極。誠ニ不幸此上ナシ。夫ニツケテモ栄次郎ノ腑甲斐ナキヲ恨ム」。